

**令和6年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～EU諸国等との大学間交流形成支援～**

[基本情報]		タイプA			
1 大学名 (○が代表申請大学)	岡山大学				
2 機関番号	代表申請大学	15301			
3 主たる交流先の相手国	スペイン、フランス				
4 事業者 (大学の設置者)	ふりがな (氏名)	なす やすとも 那須 保友	(所属・職名) 学長		
5 申請者 (大学の学長)	ふりがな (氏名)	なす やすとも 那須 保友			
6 事業責任者	ふりがな (氏名)	すずき たかよし 鈴木 孝義	(所属・職名) 副学長(国際・同窓会担当)		
7 プログラム名	【和文】 生殖環境科学を通してWell-beingに寄与する日欧先駆人材育成プログラム				
	【英文】 EU-Japan Practical Leadership Program for Well-being through Reproductive and Environmental Sciences				
8 分野 (該当ある場合のみ)	☐ 半導体 ☒ AI ☐ 量子技術 ☒ バイオ技術				左記のうち、主たる1分野があれば選択 バイオ技術
9 取組学部・研究科等名 (必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)	学問分野	☐ 理工系 ☐ 農学系 ☐ 医歯薬系 ☐ 看護・医療系 ☐ 全学 ☒ その他			
	実施対象 (学部・大学院)	☐ 学部 ☒ 大学院 ☐ 学部及び大学院			
		環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、医歯薬学総合研究科、保健学研究科			

10. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	スペイン	ムルシア大学	University of Murcia	獣医学部、医学部他
2	フランス	トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学	University of Toulouse III, Paul Sabatier	Faculty of Science, Faculty of Technology
3	フランス	ソルボンヌ大学	Sorbonne University	Faculty of Science and Technology
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

11. 連携してプログラムを実施する機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

(大学名: 岡山大学) タイプA

12. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

岡山大学

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/sel.html>

13. 本事業経費

(単位: 千円) ※千円未満は切り捨て

年度		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	合 計
事業規模 (総事業費)		19,890	25,628	24,418	24,168	22,051	116,155
内 訳	補助金申請額	15,300	16,000	15,138	10,648	5,333	62,419
	大学負担額	4,590	9,628	9,280	13,520	16,718	53,736

14. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
担当者	ふりがな (氏名)			(所属・職名)	
	電話番号			緊急連絡先	
	e-mail(主)			e-mail(副)	

(大学名: 岡山大学) タイプA

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容

① 交流プログラムの目的・概要等【1 ページ以内】

【交流プログラムの目的及び概要等】

背景及び目的 化学物質の氾濫などの環境悪化や社会経済活動の煽りから地球上で”生殖”が脅かされている(Planetary boundaries 評価では 2009 年時点で生物多様性損失(絶滅率)は限界値を超えている)。岡山大学は、他大学に先駆け生殖補助医療技術教育研究センターや”環境”を名称に掲げた環境理工学部を設置し、生殖科学や環境科学での特色ある教育研究を実施しており、国立大学で最多の胚培養士資格保持者を輩出している。ムルシア大学は欧州における生殖科学教育研究の中心の一つで、これまで多くの EU 事業(MSCA や Erasmus+等)を実施し、世界最大の生殖補助医療機関 IVI RMA Global を含む欧州生殖科学ネットワークを有している。

本プログラムの目的は、日欧双方の強みや特色を活かし、上記課題を克服し、Well-being を実現する人材養成(詳細は下記参照)を博士前期課程で実践的に行うために、人類の Well-being に直結する生殖・生殖補助に資する生殖科学領域と生殖に影響を及ぼす社会環境要因の解明と解決を図る環境科学領域を主対象として、生命観や社会的規制が異なる日本と欧州双方で学ぶことで、本領域の幅広い知識や観点、スキル等を身に付けた次世代先駆人材を養成する(アウトプット)ことにある。また、それらを通して、人類の Well-being に資する生殖環境科学的知見の発見・蓄積や関連する科学・医療先端技術(遺伝子編集などのバイオ技術や AI 等を含む)の開発・適用を推進する日欧ネットワークの形成・強化と研究力向上、共育共創の実現を目指す(アウトカム)。

概要 日欧(日西仏)の優秀な講師陣による英語での Web 活用型ハイブリッド授業(導入・専門科目)と、短期滞在型インターンシップ(事前指導・報告会+1~3 か月派遣・受入:日欧双方の生殖科学・環境科学関係機関・企業等)、中長期滞在型特別研究(事前指導・成果発表会+3 か月~1 年派遣・受入:指導教員と現地サポート教員の指導下での特別研究)からなり、単位取得等に関しては EU 修士課程における内部質保証を最低レベルとして実施委員会で管理する。外部評価によるオープンなシステム管理を伴うことで社会的・国際的通用性を担保したプログラムにする。また、積極的に若手教員および事務職員を派遣し、現地での教育や事務手続きに従事させることにより、プログラムの持続性を高める。

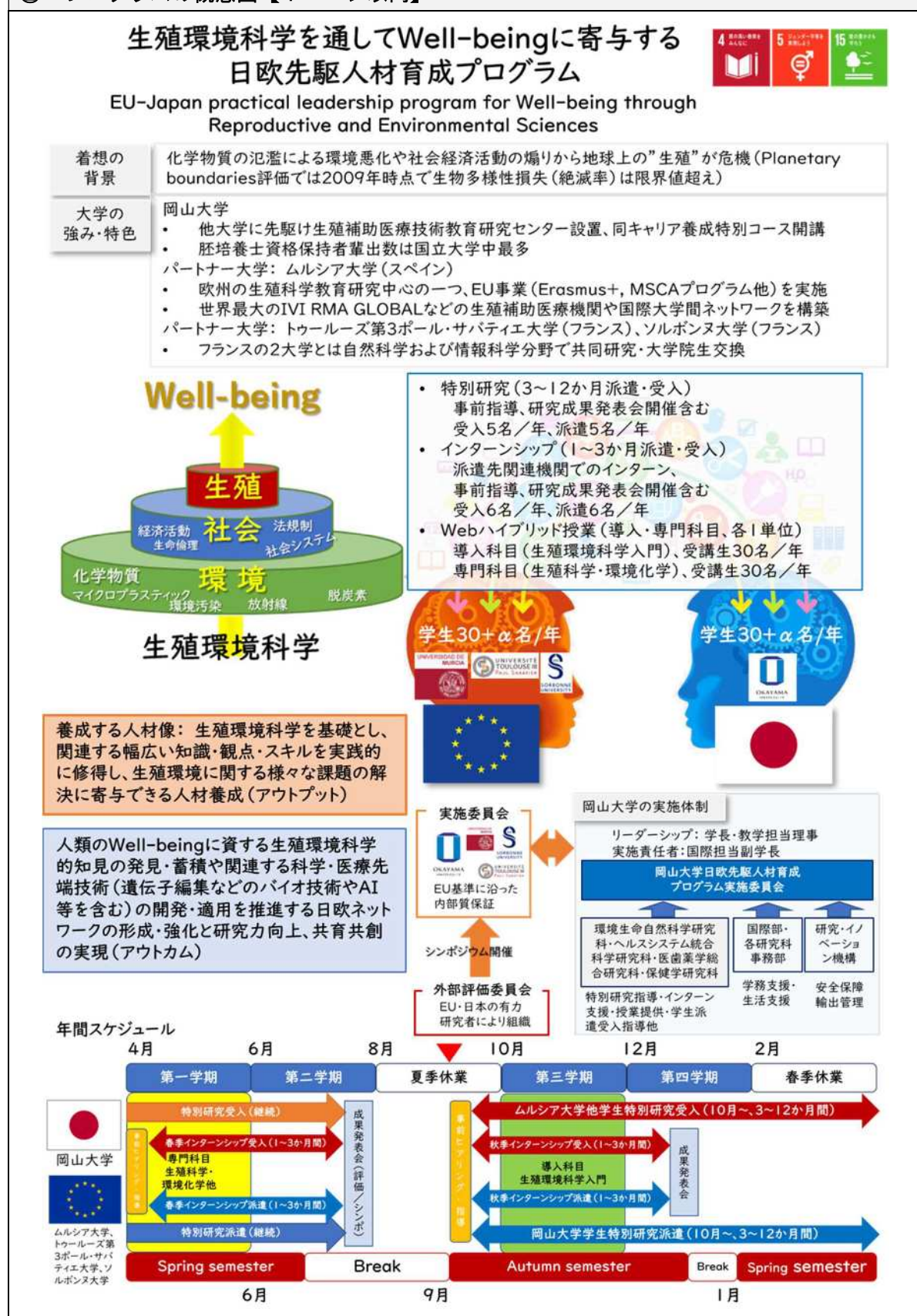
【養成する人材像】

本プログラムでは、歴史や宗教、文化などが異なる日本と欧州で、生殖科学・生殖補助医療技術学を先進的に取り組んでいる二大学間の積極的交流をコアに、生殖に大きく影響する環境科学および社会科学的アプローチをも包含したプログラムを通して、生殖環境科学を基礎とし、内分泌攪乱物質などの環境要因と生殖環境に影響する社会経済活動要因(社会システム課題等含む)に関する幅広い知識をはじめ、異なる生命観など様々な観点に基づくアプローチやスキルを実践的に修得し、現在、気候変動と共に、地球上の生物が直面している生殖環境に関する様々な課題の解決に寄与できる次世代先駆人材を養成する人材像とする。岡山大学では、学士課程・博士前期(修士)課程・博士後期(博士)課程のそれぞれで段階的に5つの力(教養力、専門力、コミュニケーション力、探究力、実践力)を高め、理念と目的に基づき、新たな価値創造と世界の革新に貢献できる「主体的に変容し続ける先駆者」を養成している。本プログラムでも、これらの5つの力を身に付けた上述人材を養成するとともに、上記アウトカムを実現する。

【本プログラムで計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数(交流期間、単位の取得の有無は問わない)

2024 年度		2025 年度		2026 年度		2027 年度		2028 年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
21	21	59	59	74	74	74	74	44	44

② プログラムの概念図【1 ページ以内】



(大学名: 岡山大学) (タイプ: A)

③ 国内大学等の連携図【1 ページ以内】

10学部 7 研究科を有する大型総合大学である岡山大学では、地球規模の課題である SGD の達成に向け、様々なステークホルダーと共に“ありたい未来を共育共創”すべく、幅広くまた学際的な教育研究を展開している。本プログラムは、本学の特色である“生殖”と“環境”をキーワードに、地球規模で深刻になっている課題解決に主体・実践的に貢献する次世代先駆人材の養成に向け、これまで構築してきた国際交流実績や学内研究科内ネットワークをコアとして複数部局（環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、医歯薬学総合研究科、保健学研究科）で実施するものであることから、本学単独での申請となった。

一方、生殖補助医療技術者の養成プログラムが最近、山梨大学にも設置されるなど、広がりを見せており、岡山大学が中心となって組織している生殖補助医療技術教育カリキュラム標準化懇談会にも参加いただいていることから、本事業で得られる成果について、これらのネットワークおよびHP など様々なグループや手段を通じて、積極的に広く国内外に発信し、本事業に係る日欧双方のネットワーク拡大に努める。また、生殖補助医療技術教育カリキュラム標準化懇談会参画大学を中心に、本事業遂行中に大学院博士前期（修士）課程レベルでの体制が整った大学との本事業での連携を模索する。

（大学名：岡山大学）（タイプ： A）

④ 交流プログラムの内容及び大学間交流の枠組み形成【8 ページ以内】

【実績・準備状況】

【岡山大学および関係大学の特徴】

岡山大学は、他の国立大学に先駆けて環境理工学部および生殖補助医療技術教育センターを立ち上げ、前者においては、“環境”に様々な角度から学際的にアプローチする学士課程教育を実施し、現在、工学部・農学部でもその流れが維持されている。後者においては、学士課程および博士前期課程で優秀な生殖補助医療技術者になるためのキャリア養成に特化した特別コースを開講し、西日本地域の生殖補助医療機関を中心に多くの人材を輩出しており、国立大学では最も多く胚培養士の資格保持者を出している。また、関連する教育研究分野は医歯薬学総合研究科や保健学研究科にも存在する。一方、ムルシア大学についても、欧州における生殖科学の中心の一つとして数多くの研究者・教員集団を形成しており、世界最大の IVI RMA GLOBAL をはじめとする多くの生殖補助医療機関や欧米他の多くの大学（岡山大学も含まれる）とも長く友好な関係を有し、修士課程の学生をこれまでインターンシップとして多く派遣しており、修了生の多くは生殖補助医療機関で活躍している。また、トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学は、配位科学研究所やヘテロ元素科学研究所、材料開発・構造学研究所をはじめとする多数の CNRS 研究所を有し、触媒・材料からヘルスケアに関わる化学研究拠点として欧州最大級の規模を誇るとともに、スペインとのアクセスも良い地理的環境にある。一方、ソルボンヌ大学はピエール・マリキュリー大学を前身とする、フランス国内では自然科学分野において最も著名な大学であり、本学とは現在、自然科学および情報科学分野において活発な研究者・大学院生交流が行われている。

【岡山大学と関係大学とのこれまでの交流実績】

岡山大学は、2006年に自然科学研究科とムルシア大学獣医学部との部局間交流協定を締結し、2013年に大学間交流協定へ交流範囲を拡大し今日に至っている。2013年以前の7年間では、教員受入7名（1～2か月）、教員派遣8名（7日～1か月）、大学院生受入13名（1～3か月）、大学院生派遣2名（3か月）と、EU の Erasmus プログラムや JASSO の海外留学支援制度（協定派遣および協定受入）を活用した教員交流や大学院生受入が活発であったが、大学間交流協定を締結した2013年以降、教員受入5名、教員派遣8名、大学院生受入14名（2～5か月）、大学院生派遣6名（3か月）と、EU の Marie Skłodowska-Curie Actions Innovation Training Networks (ITN)プログラム”Rep-Biotech”や Erasmus+プログラム、JASSO の海外留学支援制度（協定派遣および協定受入）を活用した大学院生の派遣・受入を強化した交流を行ってきた。受入大学院生については特別研究（修士論文・博士論文）の一部を岡山大学で実施し、派遣大学院生については、特別研究（修士論文）に必要な技術習得や現地生殖補助医療施設など関係機関の見学を含む内容を実施している。ムルシア大学獣医学部が基幹校となり採択された EU Marie Skłodowska-Curie Actions Innovation Training Networks (ITN) ”Rep-Biotech”プログラムで 2018 年度に受け入れた博士課程学生2名は修了時に高い評価を受け、うち1名は現在、理化学研究所神戸キャンパスで研究員として活躍中である。また、受入大学院生の中には、日欧の大学院博士（後期）課程を修了後、日欧の大学で職を得て活躍している者もいる（うち1名は、ムルシア大学修士課程修了後に、岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程に進み、その修了後に岡山大学特任助教を経て、現在、東京農工大学特任助教として活躍中である。）。また、トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学とは、新規な金属錯体および有機金属化合物の開発を主題とした共同研究において、研究者及び大学院生の相互派遣・受入を行っており、博士前期課程大学院生の特別研究（3ヶ月～6ヶ月）交流を双方向（2017 年以降：派遣3名、受入 1 名）で実施している。ソルボンヌ大学とは、物理・化学・生物・情報科学分野を中心に、2010 年以降研究者および大学院生の相互交流を行っている（2021/2022 年度は大学院生を特別研究学生として派遣、2021 年以降は年平均 15 名のソルボンヌ大学院生を短期（2～8 か月）特別研究生（インターンシップ生）として受入）。

（大学名：岡山大学）（タイプ： A）

【岡山大学および関係大学における準備状況】

ムルシア大学獣医学部は、より長期の派遣によるインターンシップや特別研究を充実させるために、これまで1年生であった修士課程プログラムに加えて、本プログラムに關係する2年制修士課程プログラム (Master in Biology and Technology of Reproduction: <https://www.um.es/web/estudios/masteres/bio-tecnolo-mamiferos>) を新設し、国内外の機関・施設 (岡山大学 (日本)、ダブリンカレッジ大学 (アイルランド)、リマリック大学 (アイルランド)、ゲント大学 (ベルギー)、ミズーリ大学 (米国)、ノースダコタ大学 (米国) 他の大学、IVI RMA GLOBAL 他の生殖時補助医療機関、INRA (フランス) などの研究機関) への大学院生の中長期派遣を可能にしている。本プログラムへの応募に向けた事前打ち合わせのため、本年3月に岡山大学の教員1名がムルシア大学を訪問し、国際担当副学長および関係教員と面談を行い、交流プログラムの打ち合わせおよび申請への了承を得ており、本プログラム実施に向けた両機関間の準備は既に整備されている。また、ムルシア大学では本年3月からEUのMarie Skłodowska-Curie Actions (MSCA) の新たな博士課程プログラムとして Advancing Fertility and Reproduction through Dedicated and Innovative Technological Applications (右図) が採択されており、欧州での新たな生殖科学ネットワークを構築している。本修士プログラムでのこれらのネットワークとの接続・充実による研究力向上 (アウトカム) は日欧双方にとって魅力的である。



また、本学とトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学およびソルボンヌ大学側の大学間協定実施責任者間で、合同オンライン授業の構築や研究留学・インターンシップとしての学生派遣の準備調整を進めている。両大学の実施責任者はともに化学を専門とする教員であるが、生殖・環境科学を中心とする本プログラムに主体的に参加できる動物科学・生命科学・物質科学分野の教員とも容易に協力依頼し、実施組織編成ができる体制を整えている。

【計画内容】

上述の通り、両日欧サイドの準備が整った本プログラムでは、日欧で先駆的に生殖科学・生殖補助医療学に関する博士前期 (修士) プログラムに取り組んでいる日西二つの大学のプログラムをコアとして、自然科学系で交流実績のある仏系2大学を加え、短期インターンシップだけでなく中長期特別研究派遣・受入を含む4研究科 (環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、医歯薬学総合研究科、保健学研究科) 合同交流プログラムとして発展させることで、(異なる研究科間を含む) 学生間の交流や議論の中で、歴史や宗教、文明・文化等の違いが生み出した生殖に関する捉え方や生命観など様々な観点やアプローチ等の違い、生命に関する法律や生殖補助医療や遺伝子編集に関する規制の違いなどの差異から多くの考え方、捉え方を学べる魅力的なプログラムを構築する。本領域において大学間交流推進の牽引役となる先導的プログラム計画である (概念図参照)。

○内部質保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

本交流プログラムでは、Web 活用型ハイブリッド授業および短期インターンシップ研修 (派遣・受入)、中長期特別研究 (派遣・受入) による大学間交流の枠組みで実施する。Web 活用型ハイブリッド授業 (導入・専門科目: 次頁右図) については、アクティブラーニングを基本とし、日欧双方のコーディネート教員が、オムニバス授業を担当した日欧双方の各教員 (本学は当該4研究科教員が担当) の評価に基づいてそれぞれの大学院生の評価を行い、各大学の該当 (特別) 開講科目の単位として認定する (第一段階)。

同時に協議を進め、プログラム開始3年目までに各プログラムが開講している他の科目 (英語での実施科目) について相互履修科目を増やし、科目提供大学で成績評価を行い、3年目からは、これらの質保証については、岡山大学およびパートナー大学双方に關係教員による委員会を組織して、パートナー大学

で実施されている EU 基準に沿った修士課程の内部質保証を行う(第二段階)。開講予定科目に関わる大学については下図の通りである。



また、プログラム全体の質保証については、EU および日本の有力な研究者によって組織される外部評価委員会を設置して、事業開始 2 年目にシンポジウムと合わせて開催し、得られた評価に沿った事業内容の修正を行うとともに、最終年度にも同様の形式で開催し、事業全体の総括を行い、その後の事業の自立化を含む新たな展開に向けた検討を行うこととする。また、本プログラムで形成される質保証を含む枠組みをロールモデルとして、他分野(環境関連領域に関する化学分野、生殖補助医療と関連する AI 分野、生殖科学と関連する遺伝子編集・iPS 細胞・胚性幹細胞分野)への横展開を図るだけでなく、交流実績のある EU の他大学への拡大も視野に入れる。

○先導的プログラム計画について、岡山大学の理念・目的、長期ビジョン 2050/ビジョン 3.0、第 4 期中期目標・中期計画との関係について

岡山大学は、理念として「高度な知の創造と的確な知の継承」を、また目的として「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を掲げており、それに沿った長期ビジョン 2050(～2050 年)として、「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」を定めている。本プログラムは、これら理念・目的・長期ビジョン 2050 に沿い、地球レベルの課題に対して共育共創を実現し、世界の革新に寄与できるものといえる。さらに、第 4 期中期目標・中期計画の期間と合致する中期ビジョン(岡山大学ビジョン 3.0)(2022～2027 年)として、「ありがたい未来を共に育み、共に創る研究大学」を、また教育については「主体的に変容し続ける先駆者の養成」を謳っており、岡山大学の第 4 期(令和 4～9 年(2022～2027 年)度)中期目標においては、「サステナビリティとウェルビーイングを追究する研究大学として、人文・社会科学から自然科学・医療にわたる幅広い専門知・実践知と、データサイエンスをはじめとする、新たなリテラシーとの分野横断的な統合による「総合知」の創出・活用を通じて、データ駆動型社会におけるグローバル人材育成」、教育においては、「地域・世界との「共育共創」のフレームワークの下、ラーニング・アウトカムを重視する学修者本位の教育体制と環境を研究大学に相応しい姿で構築」するとし、「学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成」するとしている。中期目標を実現するための中期計画においては、「海外の協定校・外国政府機関・国際機関他との連携により、グローバルに活躍できる次世代リーダー育成に資する SDGs 国際教育プログラムを開発し、学生の海外派遣拡大や優秀な留学生の獲得、修了生のネットワーク強化に資する。DX を活用したハイブリッド型国際 SDGs プログラムによる海外大学との連携など、大学院課程における SDGs 国際教育プログラムを推進し、世界で活躍する次世代リーダーを養成する」としている。本プログラムは、まさに EU の協定校との連携の下に国際的な視野を有し生殖環境科学領域の関係分野でグローバルに活躍できる次世代先駆人材を養成する、DX を活用したハイブリッド型国際教育プログラムを開発しようとするものであり、これらのビジョン、中期目標・中期計画に合致し、それらを推進するものである。

○岡山大学における責任・協力体制について(★)

岡山大学内においては、学長のリーダーシップの下で、組織的に責任・協力体制を構築する(次頁右図)。具体的には、内部質保証の項目でも記載の通り、複数の研究科(環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、医歯薬学総合研究科、保健学研究科)を跨ぐ関係教員による岡山大学側の

生殖環境科学入門

第1回	導入授業・グループ考察:プラネタリーバウンダリーと生殖
第2回	グループ発表と全体討論:プラネタリーバウンダリーと生殖
第3回	導入授業・グループ考察:生殖に影響を及ぼす環境・社会要因
第4回	グループ発表と全体討論:生殖に影響を及ぼす環境・社会要因
第5回	導入授業・グループ考察:日欧の生命観・生殖観の差異と生殖補助技術
第6回	グループ発表と全体討論:日欧の生命観・生殖観の差異と生殖補助技術
第7回	全体のまとめと総合討論

生殖科学

第1回	導入授業・グループ考察:生殖を制御する
第2回	グループ発表と全体討論:生殖を制御する
第3回	導入授業・グループ考察:生殖細胞をつくる
第4回	グループ発表と全体討論:生殖細胞をつくる
第5回	導入授業・グループ考察:生殖細胞のエラーを直す
第6回	グループ発表と全体討論:生殖細胞のエラーを直す
第7回	全体のまとめと総合討論

環境化学

第1回	導入授業・グループ考察:化学物質の功罪
第2回	グループ発表と全体討論:化学物質の功罪
第3回	導入授業・グループ考察:希釈と分解
第4回	グループ発表と全体討論:希釈と分解
第5回	導入授業・グループ考察:持続可能社会と化学
第6回	グループ発表と全体討論:持続可能社会と化学
第7回	全体のまとめと総合討論

(大学名:岡山大学)(タイプ: A)

実施委員会を組織し、本プログラムの実施および教育研究に関する内部質保証を担当する。

同委員会には関係研究科の副研究科長(国際または教育担当)も参加し、研究科としての責任・協力体制を明らかにする。Webを活用したハイブリッド型授業と派遣・受入を含むこの教育プログラムは、教学担当理事の所掌下に置き、国際担当副学長が責任者となり監督する。国際部と関係研究科事務部が協力して本プログラムの事務手続きを担当し、受入・派遣時の事務手続き、安全保障手続き、国際交流会館などの留学生滞在所への入居手続き等、学務・生活支援を行う。

○交流プログラムの柔軟性について

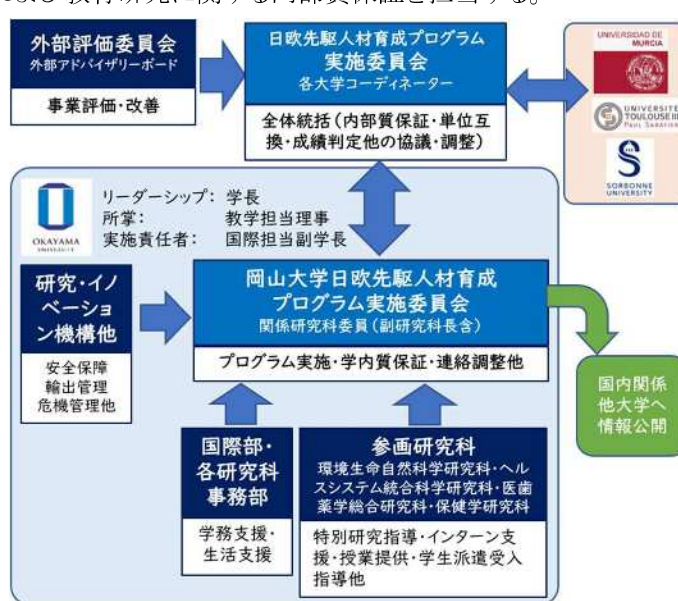
本交流プログラムでは、上述の通り、日欧の優秀な研究者を含む講師陣による英語でのオムニバスWebを活用したハイブリッド授業(導入・専門科目)を行い、後述の外国人留学生と日本人大学院生が学ぶ合う学修環境を創出する。その中で、本プログラム履修学生(日本側は本学当該 4 研究科から広く募集)は、導入科目の生殖環境科学入門については、全員履修とし、専門科目については、生殖科学とそれを取り巻く環境化学について、自らの興味に基づいてどちらかを選択できるよう柔軟性を持たせている。また、派遣事業に関しては、短期滞在型インターンシップ(ヒアリング(事前・事後)および 1~3 か月の派遣・受入:日欧双方の生殖科学・環境化学・生殖補助医療を中心とした教育研究・医療機関・関係企業等でのインターンシップを予定)か、あるいは中長期滞在型特別研究(ヒアリング(事前・事後)および 3 か月~1 年の派遣・受入:指導教員と現地サポート教員の指導サポート下での特別研究従事)を選択できるようにして、4 研究科(環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、医歯薬学総合研究科、保健学研究科)に所属する大学院生のニーズや興味に沿った柔軟性を持たせた上で、上述の通り、それぞれの単位認定を厳格に内部質保証するプログラムとしている。

○多様な学生の交流プログラムへの参加機会の提供について

特別研究およびインターンシップで実渡航している学生とそれぞれの大学の博士前期(修士)課程プログラムで学ぶ学生との間で、交流プログラムを実施する。双方の大学では、受入留学生が問題なく日本および欧州の生活習慣に馴染めるようプログラムの履修学生とのミーティングやチームメイキングの機会を捉えてサポートし、問題なく派遣プログラムを開始できるよう工夫する。また、Webを活用したハイブリッド授業では、将来この交流プログラムに参加を見込める学部生にもオブザーバーとして聴講できる機会(オンデマンド機会を含む)を設けるとともに、プログラム履修学生以外にも条件(ムルシア大学が履修に求める CEFR B1 レベル以上)を満たす学生には履修の門戸を広げ、多様な学生の本交流プログラムへの参加機会を提供する。さらに、派遣・受入学生が滞在中に履修を希望する英語開講科目(留学生の多い岡山大学大学院環境生命自然科学研究科では英語のみで修了できるコースも存在し、英語対応科目が多数開講されており、ムルシア大学の修士課程プログラムは全て英語で開講されている)について履修を奨励することで、交流プログラムの裾野を広げる。短期インターンシップでは現地プログラムの学生とともに絶えず多様性を意識したチームで実施する予定である。また、中長期の特別研究で派遣・受入する学生は、それぞれの受入講座において交流の場や研究に必要な技術の習得などで助け合い、交流するよう仕向ける。

○実渡航前後のプレ・ポスト交流プログラム(教育内容と期待される教育効果)について(★)

短期インターンシップおよび中長期特別研究による実渡航前には、派遣側指導教員と受入側サポート教員を交えた Web ヒアリングを必ず複数回行い、学修者と、それぞれインターン先やインターンの内容、および特別研究のテーマ・内容・準備等について入念に打ち合わせを行い、学修者に合意事項を必ずインターンまたは特別研究の計画書として提出させ、修正の後に、派遣側指導教員と受入側サポート教員、学修者が同意のサインをした上で、インターンまたは特別研究を開始する。さらに、派遣前後にはそれぞれ派遣大学においてインターン・特別研究成果発表会を開催し、派遣学生によるインターン報告・特別研究成果発表を行い、指導教員・サポート教員だけでなく関係教員(派遣側・受入側)からのコメントなどを



参考に最終レポートを提出させる。これらの一連のプレ・ポスト交流プログラムを通して、学修者がインターンシップまたは特別研究の内容をしっかりと理解し、簡潔な文章にまとめる作業を通して、学修者は対象に対して深く広くアプローチする思考訓練や内省の機会を得て、インターンシップや特別研究の実施を通して得るコミュニケーション力や実践力とともに、教養力・専門力や探究力(本学が伸ばす5つの力)の向上を期待できる。

○外国人留学生と日本人が学び合う学修環境(アクティブラーニング)について(★)

Web を活用したハイブリッド授業の中で、導入科目については、生殖環境科学入門(1 単位)として、生殖の基礎知識、生殖に影響を及ぼす環境要因とその現状、生殖に影響を及ぼす社会経済システムとその課題、生殖医療や生殖科学に影響を及ぼす生命観や生殖観について、日欧双方の教員によるオムニバス授業を実施する予定であるが、中ではグループディスカッションやグループワークなど学修者によるアクティブラーニングを主体とし、日欧の差異や均一性から学ぶ学修環境をつくる。専門科目や上述のプレ・ポスト交流プログラムを通して、外国人留学生と日本人が学び合う学修環境の創出を意識したプログラム運営に努める。さらに岡山大学では、留学生と日本人学生の交流・共創の場として L-Café を整備しており、吉備地域の日本文化に触れるなど、様々な交流メニューが企画実施されている。岡山大学に受入学生は実体験として、現地からの参加者は Web を通した仮想体験として多様な交流プログラムに参加できるよう工夫する。また、派遣学生は、現地での留学生向けプログラムに積極的に参加することで文化や言語の理解につながるよう配慮される。

○留学後の学生に対する継続的フォローアップと留学の効果の持続性について(★)

これまでの交流で交換留学を経験した多くの学生とは、WhatsApp、LinkedIn、Instagram、X、Facebook、Line 等でフォロー、あるいは教員・研究者となっている者については ORCID、Scopus Author、AD Scientific Index 等で研究業績の確認について個々にできる状態にあるが、プログラムとして組織的に継続的にフォローアップおよび効果測定はできていなかった。そこで、本プログラムでは、プログラムに参加した学生の同窓会的グループを Web 上に作り、持続的な交流を行うとともに、参加学生のリストにこれらの ID をリンクすることで、より組織的なフォローアップを可能にする。また、定期的なアンケートを実施(年1回)することで、継続的な効果測定を可能にする。

○単位取得可能な科目の提供について(★)

岡山大学では、全ての大学院研究科で実施する大学院共通科目として、博士前期(修士)課程においては、「リーダーシップとSDGs 科目」と「プロジェクトマネジメント実習科目」、「特別研究科目」を実施することとしている。本プログラムで実施する短期型インターンシップ(1～3か月)については「プロジェクトマネジメント実習科目」の「海外学修(長期)」(2単位)として、また中長期特別研究(3～12か月)については「特別研究科目」の「特別研究」(10単位)の一部として修了要件単位にカウントする。さらに、Web を活用したハイブリッド導入授業「生殖環境科学入門」(1単位:全参加学生受講)および同専門科目「生殖科学」(1単位:岡山大学とムルシア大学)および「環境化学」(1単位:岡山大学とトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学およびソルボンヌ大学)については、研究科専門科目として修了要件単位にカウントする。本プログラム開始時には、これらすべての科目に関する派遣・受入学生の評価は、受入側大学のサポート教員による評価を基に派遣側大学の担当教員が評価を付け、単位認定を行うこととするが、本プロジェクト開始3年目を目途に、「特別研究」を除く科目については、受入側が認定した単位を派遣側大学でも認められるよう評価レベル・事項の共通化を図る。また、特別研究についても、現在の岡山大学の研究科規定では学生派遣に伴う受入側教員が(副)指導教員となることを想定していないが、本プロジェクト開始3年目を目途に、規定変更によりそれらを可能にし、特別研究や修士論文の指導・評価にも関わられるようにする。修士論文の審査については、現在の岡山大学の研究科規定でも学外の研究者が副査になることは可能であるので、積極的に活用し、高い質保証につなげる。

○インターンシップの実施計画について(★)

本プログラムで実施するインターンシップは、プログラム全体の中で比較的短期(1～3か月)の派遣プログラムとして位置づけられ、上述のように、「海外学修(長期)」(2単位)として単位認定する予定である。インターンシップの実施内容として、カウンターパートの受入大学で生殖環境科学や生殖補助医療学関係の教育や関係機関の現状について実践的に学ぶとともに、関係機関を訪問して体験学習を行う。訪問する関係機関については、学修者とのプレ交流プログラムに位置付ける Web ヒアリングや計画書作成・成果発表会を通して決定するが、岡山大学では、近隣をはじめ西日本を中心とした生殖補助医療機関および関連企業、政府系機関などを想定している。また、パートナー大学側では、修士課程プログラム(Master in Biology and Technology of Reproduction:ムルシア大学)でインターンシップ先として合意している”欧州”の生殖補助医療機関をはじめ、各国政府系研究機関・関係大学・関係企業など(次頁右図参照)を想

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

定している。

○学部の段階からの本プログラムへの導入に向けた取り組みについて(★)

本プログラムの岡山大学側主幹的部局となる大学院環境生命自然科学研究科は優秀な学士教育課程および博士前期課程に学ぶ学生にそれぞれ博士前期課程プログラムおよび博士後期課程プログラムの先取り履修を可能にし、より充実した研究期間の確保や大学院の早期修了を可能にする FlexBMD プログラムを有している。

大学院進学を希望する優秀な学士課程の学生については、4年次から大学院博士前期課程の履修を一部認めている。その学生を対象に、本交流プログラムに含まれる Web を活用したハイブリッド型授業(導入・専門科目)の履修を他の博士前期課程学生とともに認め、Web(カウンターパートプログラム学生)および対面(派遣留学生)で EU の大学の修士課程の学生と一緒に議論する機会やカウンターパートの大学での学びに関するカウンセリングを受けられることで、本プログラムへの理解と留学へのハードルを下げる。また、他の学士課程の学生には大学院進学を勧める機会をとらえ、本プログラムの広報の場を設けるとともに、受入学生と派遣予定学生との交流の場に積極的に参加してもらい、博士前期課程への進学時に本プログラムに参加する学生を増やす工夫を行う。さらに、希望学生を対象に、派遣に必要な語学力の確認を目的として Linguaskill 受験をサポートし、CEFR スコア B1 以上の取得を推進する。また、ムルシア大学でも修士課程のプロモーションの機会に本プログラムの紹介を向こうの教員にしてもらっただけでなく、毎年、若手教員と事務担当者を積極的に派遣し、派遣学生と共に、英語による大学紹介や研究紹介、セミナーなどを通して本プログラムの広報を実施することで、本プログラムへの留学生数を増加させる。実際、今年 3 月に本公募への申請のための事前打合せにムルシア大学を訪れた際に、セミナーを行ったところ、6 名のムルシア大学修士課程の学生が 2024 年度から 2025 年度にかけて岡山大学で特別研究を実施したいと手を挙げており、本取組は有効な手段であると思われる。

○留学生受け入れ時の安全保障貿易管理に関する管理や FD について(★)

岡山大学における留学生受入時の安全保障貿易管理については、岡山大学安全保障輸出管理規程が定められており、それに沿った手続きにより許可を受ける。具体的には、安全保障貿易管理マニュアル(https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/12/3_manual_kouhen_kyounin.pdf)に従い留学生を受け入れる際に、事前確認シートを作成し、各部局の事務部に提出し、部局等輸出管理者(部局責任者)によるチェックおよびその後の手続き・許可を経た後に受け入れることになっている。本プログラムにおいても、この手続きを厳守する。また、岡山大学では、安全保障輸出管理 e ラーニングの毎年受講が義務付けられており、関係教職員は全員受講している。

○ダブル・ディグリー構築の可能性について(★)

本プログラムによる実績を更に積み上げつつ、本交流プログラムを構成する学位プログラムコース(例:ムルシア大学獣医学部の Master in Biology and Technology of Reproduction と岡山大学大学院環境生命自然科学研究科の地球環境生命科学学位プログラム応用動物科学コースあるいは同研究科と保健学研究科で実施している特定プログラム生殖補助医療学コース)と派遣先大学の修士課程学位プログラムの間で、本プログラムの終了時まで、ダブル・ディグリー等共同教育プログラムへ発展させるために、「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン(改定第二版)」に沿って協議を重ね、構築を目指す。

○アドバンスド・プレースメント制度の導入について(★)

上述の通り、岡山大学側主幹的部局となる大学院環境生命自然科学研究科は優秀な学士教育課程および博士前期課程に学ぶ学生にそれぞれ博士前期課程プログラムおよび博士後期課程プログラムの先取り履修を可能にし、より充実した研究期間の確保や大学院の先取履修や早期修了を可能にする FlexBMD プログラム・WAAP プログラム(<https://www.elst.okayama-u.ac.jp/education/special-courses/>)



(大学名:岡山大学)(タイプ: A)

を有している。この FlexBMD プログラムには、科目等履修生として学部生の間に履修・修得した単位を大学院入学後に算入するアドバンスド・プレースメント制度が既に存在しており、本プログラムでもこれらの学生に Web を活用したハイブリッド型授業(導入・専門科目)の履修を認め、この制度を活用する。

○成績管理および単位の実質化について

本交流プログラムの成績管理及び単位の実質化については、欧州の大学で実施されているインターンシップに関する学生および担当教員の評価観点<学生に関する評価観点(①インターン開始時の科学的技術的知識レベル、②インターン終了時の科学的技術的知識レベル、③実施した専門的技術的トレーニングの評価、④インターン中に得られた専門的な経験、⑤当該学生と受入側メンバーとの関係、⑥将来当該学生を受け入れられるか否か、⑦インターン期間が学生にとって有意義であったか否か)、教員に関する評価観点(派遣大学や学生との連絡およびコーディネート)および全体的評価観点>によりそれぞれ10点満点で総合評価を行う方法を本プログラムでも採用し、計画書および成果報告書や現地での活動などを根拠に現地サポート(コーディネート)教員が評価した上で、指導教員が成績評価に利用(岡山大学の場合は100点満点で欧州の各大学は10点満点で評価)する(本プロジェクト開始3年目を目途に、「特別研究」を除く科目については、受入側が認定した単位を派遣側大学でも認められるよう評価レベル・事項の共通化を図る)。授業についても同様の観点から総合的に行う。成績評価については、各大学の点数換算評価(例: 岡山大学: 90点以上 A+, 80点以上 A, 70点以上 B, 60点以上 C, 60点未満 F(単位未修得); 欧州の各大学: 10点 A+, 9点以上 A, 8点以上 B, 5点以上 C, 5点未満 F(単位未修得))に従う。

欧州単位互換制度(ECTS)では1 ECTSを10時間までの授業あるいは25時間の実習としており、修士課程修了に120 ECTSを必要としている。我が国の大学設置基準によると標準45時間の学修単位を1単位としており、岡山大学では博士前期(修士)課程修了には30単位を必要としている。本プログラムでは、プログラム開始3年目までに各大学が開講している科目(英語での実施科目)について相互履修科目を増やし、科目提供大学で成績評価を行うこととしており、その際には、上記を考慮した講義・実習毎の換算方法に基づいて単位互換を各大学の判断のもとに行う。このような単位互換に基づく交換留学の仕組みは、既に本学大学院自然科学研究科(現・環境生命自然科学研究科の改組・統合前の一研究科)において実施してきた実績もある(https://www.gnst.okayama-u.ac.jp/en/international/imac_okayama/)。

○単位付与および相互認定、学位付与のプロセスについて

上述の成績評価により得た単位の学位付与に関する扱いは各大学に委ねるが、岡山大学の学生については、上述の通り、インターンシップ派遣は「プロジェクトマネジメント実習科目(必須)」の「海外学修(長期)」(2単位)として、特別研究派遣は「特別研究科目」の「特別研究」(10単位)の一部として、さらに生殖環境科学入門や専門科目については研究科専門科目として、修了要件単位にカウントする。また、派遣学生が相手先大学で修得した単位については、各研究科の読替の可能性を含め修了要件単位算入の判断を行う。

○質の高い教育内容を実施する教育体制について

本プロジェクトは、日欧の関係主要教員をメンバーとする本プログラム実施委員会や、有力研究者による外部評価委員会を組織するだけでなく、欧州の生殖環境学領域に詳しい1名の教員(特定准教授または専門職員)を国際公募により招聘してコーディネート業務をお願いし、質の高い教育を提供できる教育体制をより強化する。また、事務補佐員を一名雇用して本プログラムの事務的サポート体制を強化する予定である。また、それぞれの大学における当該プログラムに加わっている若手教員を中心にカウンターパート大学に積極的に派遣し、相手先プログラムの中で英語による授業やセミナーの機会を与えるなどして、世代を越えた強力な教育体制の構築を目指す。同時に、若手事務職員の相互交換プログラムに参加させ、海外大学での職務体験をさせることにより国際教育サポート体制の充実にも努める。また、成果発表会や Web 活用型授業の機会を捉えて、双方の教員参加の下、FDを含む交流プログラムを実施することで、質の高い教育を提供するために取り組む。

○学修歴証明のデジタル化、マイクロクレデンシャルについて

岡山大学は現在、「部分的な修学の承認」を想定した、学修歴証明のデジタル化、マイクロクレデンシャルに対応した全学的な仕組みを構築展開出来ていないが、本プログラムの実施を契機に、カウンターパートの大学におけるシステムを参考にした検討を開始し、本プログラム修了までに仕組み構築を試みる。

達成目標【①～②-2 合わせて 4 ページ以内】**① 養成しようとするグローバル人材像について****(i) プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）**

本プログラムは、これまで国際交流実績のある日欧大学間における大学院博士前期(修士)課程での学生交流をコアとして、日欧間で Web を活用したハイブリッド授業(導入科目:生殖環境科学入門および専門科目:生殖科学・環境化学)と短期インターンシップ(1～3 か月)、中長期特別研究(3～12 か月)の 3 層レベルでの交流 Web 活用型プログラムを、新たに構築する日欧先駆人材育成プログラム実施委員会および外部評価委員会による質保証を伴う組織の下で、確実に実施し、以下のアウトプットおよびアウトカムの実現を図るものである。

養成する人材像：生殖環境科学を基礎とし、環境要因と経済社会活動要因をも含む幅広い知識・観点・スキルを実践的に修得し、地球上の生物が直面している生殖環境に関する様々な課題の解決に寄与できる人材の養成を行う(アウトプット)。

まず、「生殖環境科学を基礎とし、環境要因と経済社会活動要因をも含む幅広い知識・観点・スキルを実践的に修得」させるために以下の 2 点を達成目標に掲げる。

- **COIL を含む国際共育プログラム(Web を活用したハイブリッド授業)の実施とその充実**
日欧の大学院生が協働して学び合う場を創造することにより、歴史的・文化的影響による生命観や生殖観の差異を理解した多様な知識・観点から思考・アプローチできる人材を育成する。COIL 授業のコンテンツの共有および COIL 授業を含む事業成果については、JV-Campus を活用・発信する。
- **国際共創プログラム(インターンシップ・特別研究)の開発とその充実**
異なる地域のラボや組織で体験的に学ぶ機会を提供することで、幅広いアプローチやスキルを実践的に学んだ人材を育成する。

次に、「地球上の生物が直面している生殖環境に関する様々な課題の解決に寄与する人材養成」のために以下の 1 点掲げる。

- **地球規模の課題解決に寄与する次世代先駆人材養成モデルの構築**
国際共育プログラム(Web を活用したハイブリッド授業)および国際共創プログラム(インターンシップ・特別研究)を通して、地球上の生物が直面している生殖環境に関する様々な課題解決に向けた多角的な観点を探究し、それらから強力にアプローチを実践する人材養成モデルを構築する。

上記人材養成(アウトプット)を通して、

人類の Well-being に資する生殖環境科学的知見の発見・蓄積や関連する科学・医療先端技術(遺伝子編集などのバイオ技術や AI 等を含む)の開発・適用を推進する日欧ネットワークの形成・強化と研究力向上、共育共創の実現を行う(アウトカム)。

具体的には、以下の 3 点を目標に掲げる。

- **国際共育プログラム(Web を活用したハイブリッド授業)で得たインスピレーションによる研究推進**
日欧の歴史的・文化的影響による生命観や生殖観の差異から学んだ知識・観点から更にステップアップした、新たな思考・アプローチによる日欧共同研究の推進
- **国際共創プログラム(インターンシップ・特別研究)を通じた日欧教育研究ネットワーク形成・強化**
欧州側が有する教育研究ネットワークと岡山大学が構築する国内ネットワークを結び付け、さらに魅力的で強固な教育研究ネットワークに発展させる。
- **国際共育・共創プログラムを通じた生殖環境科学的知見の発見・蓄積による共育共創の実現**
上記国際共育・共創プログラムのアウトカムを蓄積することで、日欧交流の果実を共育共創する。

(ii) 中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）

プログラム開始初年度中に、本事業のプログラムを確実に実施する「日欧先駆人材育成プログラム実施委員会」とプログラム全体を評価・助言する「外部評価委員会」を立ち上げ、機能させるとともに、Web を活用したハイブリッド授業、インターンシップおよび特別研究を計画通り実行し、本プログラムの質保証を含む自己評価と外部評価、それらによる改善プランの策定までの PDCA サイクルを一回り実施し、これらの記録を HP にて公表するとともに、COIL 授業コンテンツの共有について JV-Campus を利用する。

以上の成果を持って中間評価に臨む。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

②-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本プログラム計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

外国語力基準		達成目標	
		中間評価まで (プログラム開始～2025 年度まで)	事後評価まで (プログラム開始～2028 年度まで)
【参考】本プログラム計画において派遣する日本人学生合計数		80	272
1	CEFR スコア B1 (TOEIC730 点以上) 相当以上	72	245
2	CEFR スコア B2 (TOEIC860 点以上) 相当以上	8	27
3			

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

言語能力を評価する国際指標であるヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) が示す B1 レベルは、Independent の Preliminary (優秀なレベルの一步手前) とされ、「一般的な日常生活や仕事に関連したトピックについて、一般的なメッセージと具体的な詳細の両方を理解することができる。」レベルとされている。我が国と同じく英語を母国語としないパートナー大学であるムルシア大学の修士課程プログラム (Master in Biology and Technology of Reproduction) に入学するために必要な英語力の最低基準がこの CEFR の B1 レベルであること、Web 授業を活用したハイブリッド授業やインターンシップおよび特別研究で同修士課程プログラムの学生と議論を含め共に学ぶことから、同様のレベルまたはそれ以上の英語力を外国語能力基準とし、すべて (B1 相当 9 割、それ以上 1 割) の学生に到達を求める。

また、より上位の B2 レベルは、Independent レベルの First とされ、「専門分野の技術的な話も含め、具体的、抽象的な話題について、標準的な言語または慣れ親しんださまざまな言語で話される、命題的、言語的に複雑な談話の主旨を理解することができる」レベルとされ、1 割強程度の学生がこのレベルに到達することを目標としたい。

(iii) プログラム計画全体の目標達成に向けたプロセス (プログラム開始～2028 年度まで)

上記の英語力基準のうち、CEFR の B1 レベル相当を本交流プログラムへ参加するために身に付けておくべき要件として示す。上記の基準を達成するために、本プログラムでは本プログラムに興味を持つ学部生の段階から英語 4 技能試験 (Linguaskill 他) の受験を推奨 (受験料支援) するなど、本プログラム参加前から英語力を向上させるためのサポートを行う。また、学生同士が自由に交流し、多言語・多文化理解を深化させる主体的学びの場として本学に設置されている L-Café での自主的な学びなども推奨することで、実践的な英語運用能力向上と本プログラム参加への障壁を取り除くよう努め、上記英語力基準の目標達成を図る。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス (プログラム開始～2025 年度まで)

基本的には、上記 (プログラム開始～2028 年度まで) 欄記載と同様のプロセスで目標達成を目指す。プログラム開始時には、学部生からのサポートが出来ていない学生を含むことから、関係教員が積極的に相談に乗り、英語力の重要性を繰り返し説明し、適切なサポートを行うことで目標達成を図る。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

②-2 学生に習得させる具体的能力のうち、「②-1」以外について

(i) プログラム計画全体の達成目標 (プログラム開始～2028 年度まで)

【岡山大学が伸ばす共通の 5 つの力】

岡山大学では、教育の基本的目標に掲げられた、学生が「主体的に”知の創成”に参画し得る能力」を専門力及び探究力、「学生同士や教職員との密接な対話や議論」をコミュニケーション力、「豊かな人間性」を教養力、「国内外の幅広い分野において中核的に活躍」を実践力としてそれぞれ捉え、第4期中期目標・中期計画の期間においては、本学の理念と目的に基づき、新たな価値創造と世界の革新に貢献できる「主体的に変容し続ける先駆者」を養成することとしている。

学士課程・博士前期(修士)

課程・博士後期(博士)課程のそれぞれで段階的にこれら5つの力(教養力、専門力、コミュニケーション力、探究力、実践力)を高めることとしており(右表)、本プログラムでは、対象とする博士前期(修士)課程で目指す人材像と5つの力を養成する。

本プログラムでは、「①(i)」記載の通り、独自に養成する人材像(アウトプット)およびそれに伴うアウトカムを掲げているが、それらは右表に掲げる汎用コンピテンスと齟齬はなく、本プログラムを履修する学生も博士前期(修士)課程で到達する人材像と5つの力を養成することを目指す。

学士課程	自ら行動を起こすために学び続ける実践者 以下、5つの力を持つ人材を養成します。 ・自ら進んで、課題解決に挑む実践力 ・自ら問うて、課題を見出す探究力 ・語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力 ・基礎的かつ体系的な専門力 ・自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力(教養力)
博士前期課程 修士課程	国際的に活躍するために専門力を活かす先駆者 以下、5つの力を持つ人材を養成します。 ・世界と繋がり、異なる価値を認め、課題解決に導く実践力 ・論理的・複眼的に課題に迫る探究力 ・広く協働するコミュニケーション力 ・深く統合できる専門力 ・幅広い学びから自らの知を深める力(教養力)
博士後期課程 博士課程	持続的な社会を築くために新たな価値を共に創る先駆者 以下、5つの力を持つ人材を養成します。 ・課題を定め、差異を活かし、新たな知見を社会に示す実践力 ・独創的に本質を見極め、頭わす探究力 ・リーダーシップを発揮できるコミュニケーション力 ・創造できる専門力 ・様々な価値観から自らの智をたくましくする力(教養力)

(ii) 中間評価までの達成目標 (プログラム開始～2025 年度まで)

【岡山大学が伸ばす共通の 5 つの力】

プログラム開始初年度から 2025 年度までに、Web を活用したハイブリッド授業、インターンシップおよび特別研究を計画通り実行する中で、履修学生が博士前期(修士)課程で到達する上記の人材像と5つの力を養成する。また、本プログラムの質保証を含む自己評価と外部評価、それらによる改善プランの策定までの PDCA サイクルを一回り実施する中で、検証する。

③ 本プログラム計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1 ページ以内】						
現状（2024年5月1日現在）※1	0 人					
(i) 日本人学生数の達成目標						
単位：人（延べ人数）						
プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）	272					
中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）	80					
(上記の内訳)						
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について）						
単位：人						
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
実際に渡航する学生						
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	15	45	60	60	30	210
実渡航とオンライン受講を行う学生	6	14	14	14	14	62
合計人数	21	59	74	74	44	272
(a) 実渡航による交流						
本プログラムで設定した人材を養成するために、参加する全ての学生に、Web を活用したハイブリッド授業を受講させることから、実渡航のみによる交流は想定していない。						
(b) オンラインによる交流						
担当教員側の大学の学生は対面参加、カウンターパートの学生は Web 参加を基本とする Web を活用したハイブリッド授業を開講し、派遣学生には、秋季に導入科目「生殖環境科学入門」(1 単位)、春季に専門科目「生殖科学」(1 単位)または「環境化学」(1 単位)を受講させる。 中間評価までに、Web を活用したハイブリッド授業、質保証を含む自己評価と外部評価、それらによる改善プランの策定までの PDCA サイクルを一回り実施し、60 名程度(2024・2025 年度それぞれ 15 名および 45 名)の受講を想定している。						
(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流						
本プログラムで実施する短期インターンシップ(1～3 か月：春季・秋季に年 2 回募集・実施、初年度は秋季のみ)および中長期特別研究(3～12 か月：秋季に年 1 回募集・実施)によって実渡航を希望する学生で、定めた英語力基準(CEFR スコア B1 相当以上)の学生を、ムルシア大学・トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学をはじめとする欧州の大学・組織へ派遣し、カウンターパートの大学で学ぶ学生と協働してインターンおよび特別研究を行う。プログラム計画全体で 62 名程度の実渡航派遣を計画している。また、実渡航する全ての学生には、上記 Web を活用したハイブリッド授業の受講を義務付ける。 中間評価までに、Web を活用したハイブリッド授業、短期インターンシップ、中長期特別研究、質保証を含む自己評価と外部評価、それらによる改善プランの策定までの PDCA サイクルを一回り実施する中で、20 名(2024・2025 年度それぞれ 6 名および 14 名(前年度派遣“特別研究”5 名のうち継続者 3 名を含む))程度の派遣を計画している。						

※現状は、プログラムの取組単位（全学、学部等）における 2024 年 5 月 1 日現在の人数。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

④ 本プログラム計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】						
現状（2024年5月1日現在）※1				15 人		
(i) 外国人学生数の達成目標						
単位：人（延べ人数）						
プログラム計画全体の達成目標（プログラム開始～2028 年度まで）				272		
中間評価までの達成目標（プログラム開始～2025 年度まで）				80		
(上記の内訳)						
(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（プログラム計画全体、中間評価までの双方について）						
単位：人						
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
実際に渡航する学生						
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生	15	45	60	60	30	210
実渡航とオンライン受講を行う学生	6	14	14	14	14	62
合計人数	21	59	74	74	44	272
(a) 実渡航による交流						
本プログラムで設定した人材を養成するために、参加する全ての学生に、Web を活用したハイブリッド授業を受講させることから、実渡航のみによる交流は想定していない。						
(b) オンラインによる交流						
担当教員側の大学の学生は対面参加、カウンターパートの学生は Web 参加を基本とする Web を活用したハイブリッド授業を開講し、受入学生には、秋季に導入科目「生殖環境科学入門」(1 単位)、春季に専門科目「生殖科学」(1 単位)または「環境化学」(1 単位)を受講させる。						
中間評価までに、Web を活用したハイブリッド授業、質保証を含む自己評価と外部評価、それらによる改善プランの策定までの PDCA サイクルを一回り実施し、60 名程度(2024・2025 年度それぞれ 15 名および 45 名)の受講を想定している。						
(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流						
本プログラムで実施する短期インターンシップ(1～3 か月：春季・秋季に年 2 回募集・実施)および中長期特別研究(3～12 か月：秋季に年 1 回募集・実施)によって岡山大学への実渡航を希望するパートナー大学の学生で、定めた英語力基準(CEFR スコア B1 相当以上)の学生を、岡山大学で受入れ(インターンに関しては国内関係組織への派遣含む)、岡山大学で学ぶ他の学生と協働してインターンおよび特別研究を行う。プログラム計画全体で 62 名程度の実渡航受入を計画している。また、実渡航する全て学生には、上記 Web を活用したハイブリッド授業の受講を義務付ける。						
中間評価までに、Web を活用したハイブリッド授業、短期インターンシップ、中長期特別研究、質保証を含む自己評価と外部評価、それらによる改善プランの策定までの PDCA サイクルを一回り実施する中で、20 名(2024・2025 年度それぞれ 6 名および 14 名(前年度受入“特別研究”5 名のうち継続者 3 名を含む))程度の受入を計画している。						

※現状は、プログラムの取組単位（全学、学部等）における 2024 年 5 月 1 日現在の人数。

（大学名：岡山大学）（タイプ： A）

⑤ 交流学生数について（2024年度はプログラム開始以後の人数）

（単位：人）

（i）本プログラムで計画している交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	21	21	59	59	74	74	74	74	44	44	272	272
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	15	45	45	60	60	60	60	30	30	210	210
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	6	6	14	14	14	14	14	14	14	14	62	62

（ii）国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流

学生別	A	学部生
	B	大学院生

実	実際に渡航する学生
オ	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生
ハ	実渡航とオンライン受講を行う学生（ハイブリッド）

1. 【代表申請大学】

大学名 岡山大学																			
交流プログラム名 （相手大学名）	交流 方向	交流 形態	学生別	2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			2028年度			合計
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	
特別研究（ムルシア大学、トゥールーズ第3ボール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学）	派遣	③	B			3			8			8			8			8	35
特別研究（ムルシア大学、トゥールーズ第3ボール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学）	受入	③	B			3			8			8			8			8	35
インターンシップ（ムルシア大学、トゥールーズ第3ボール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学）	派遣	②	B			3			6			6			6			6	27
インターンシップ（ムルシア大学、トゥールーズ第3ボール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学）	受入	②	B			3			6			6			6			6	27
Webハイブリッド授業（ムルシア大学、トゥールーズ第3ボール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学）	派遣	①	B		15			45			60		60				30		210
Webハイブリッド授業（ムルシア大学、トゥールーズ第3ボール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学）	受入	①	B		15			45			60		60				30		210

2. 【国内連携大学等】

大学名																			
交流プログラム名 （相手大学名）	交流 方向	交流 形態	学生別	2024年度			2025年度			2026年度			2027年度			2028年度			合計
				実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	実	オ	ハ	
	派遣																		0
	受入																		0
	派遣																		0
	受入																		0

（大学名： 岡山大学 ） （タイプ： A ）

(iii) 本プログラムで計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
年度別合計人数	学生別	21	59	74	74	44	272
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		15	45	60	60	30	210
	実渡航						0
	オンライン	15	45	60	60	30	210
	ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		3	6	6	6	6	27
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	3	6	6	6	6	27
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		3	8	8	8	8	35
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	3	8	8	8	8	35
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0

(大学名： 岡山大学) (タイプ： A)

【外国人学生の受入】		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
年度別合計人数	学生別	21	59	74	74	44	272
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		15	45	60	60	30	210
	実渡航						0
	オンライン	15	45	60	60	30	210
	ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		3	6	6	6	6	27
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	3	6	6	6	6	27
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		3	8	8	8	8	35
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド	3	8	8	8	8	35
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航						0
	オンライン						0
	ハイブリッド						0

(大学名： 岡山大学) (タイプ： A)

[illegible]

(大学名： 岡山大学

(タイプ:

A

)

⑥ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
					3	3	3	3	3	3	9	9

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

学生別	A	学部生
	B	大学院生

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 岡山大学

相手大学名		学生別	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
ムルシア大学	認定者数	B			3	3	3	9
	認定単位数	B			10	10	10	30
トゥールーズ 第3 ポール・サバティエ大学	認定者数	B			2	3	2	7
	認定単位数	B			10	10	10	30
ソルボンヌ大学	認定者数	B			3	2	3	8
	認定単位数	B			10	10	10	30
年度別認定者数合計			0	0	8	8	8	24
年度別認定単位数合計			0	0	30	30	30	90

2. 国内連携大学 【大学名： 】

相手大学名		学生別	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
	認定者数							0
	認定単位数							0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0	0

(大学名： 岡山大学

)

(タイプ：

A

)

⑦ 実渡航前のオンライン教育を実施する場合、そのオンライン教育を受けた学生数について

1. 代表申請大学 【大学名： 岡山大学

交流プログラム名 (相手大学名)		分野	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
特別研究 (ムルシア大学)	実渡航した学生	生殖科学	1	2	2	2	2	9
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	生殖科学	1	2	2	2	2	9
特別研究 (トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学またはソルボンヌ大学)	実渡航した学生	環境化学	2	3	3	3	3	14
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	環境化学	2	3	3	3	3	14
インターンシップ (ムルシア大学)	実渡航した学生	生殖科学	1	2	2	2	2	9
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	生殖科学	1	2	2	2	2	9
インターンシップ (トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学またはソルボンヌ大学)	実渡航した学生	環境化学	2	4	4	4	4	18
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生	環境化学	2	4	4	4	4	18
実渡航した学生数合計			6	11	11	11	11	50
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			6	11	11	11	11	50

2. 国内連携大学 【大学名： 】

交流プログラム名 (相手大学名)		分野	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	合計
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生							0
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生							0
	実渡航した学生							0
	上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生							0
実渡航した学生数合計			0	0	0	0	0	0
上記の内、実渡航前にオンライン教育を受けた学生合計			0	0	0	0	0	0

(大学名： 岡山大学

)

(タイプ：

A

)

⑧ EU諸国等との大学との間で実施する協働/共修学習活動数について

	協働/共修学習活動 名称	開催年月	開催回数	参加人数	参加国
1	国際共育プログラム「生殖環境科学入門」	2024.10～28.3	4	210	日本・スペイン・フランス
2	国際共育プログラム「生殖科学」	2025.4～28.7	4	100	日本・スペイン・フランス
3	国際共育プログラム「環境化学」	2025.4～28.7	4	110	日本・スペイン・フランス
4	国際共創プログラム「特別研究」	2024.10～29.3	5	35	日本・スペイン・フランス
5	国際共創プログラム「インターンシップ」	2024.10～29.3	5	27	日本・スペイン・フランス
6	国際共創シンポジウム	2024.10～29.3	5	272	日本・スペイン・フランス

(大学名: 岡山大学

)

(タイプ:

A

)

⑨ 任意指標【2 ページ以内】

【現状分析及び目標設定】

本事業のアウトプットに関する任意指標:

(指標 1) 欧州の学生と協働する国際共育 COIL 科目実施数

岡山大学ではこれまで双方の大学院で学ぶ学生が単位を伴う COIL(Collaborative Online International Learning)科目で学んだことはなく、このプログラムの実施を契機として、日欧双方の教員と学生が協働してテーマに主体的に取り組む科目を新たに設ける。そこで、その科目実施数を任意指標の一つとする。

(指標 2) 国際共創特別研究を実施するカウンターパート大学数

岡山大学ではこれまで、短期派遣により交流のある大学に学生を滞在させ、自国での特別研究に有益な知識や技術を学ぶことはあったが、特別研究を日欧の研究者が直接・間接的に指導・サポート・評価に関わることはなかった。本プログラムでは、学生を日欧双方のカウンターパート大学に派遣し、日欧の研究者が直接・間接的に指導・サポート・評価を行う特別研究を実施する。そこで、実施するカウンターパート大学数を任意指標の一つとする。

(指標 3) ダブル・ディグリー等共同教育プログラム(DDP;授業料相互不徴収型)履修日本人学生数

岡山大学はこれまで、本学への編入学を伴う国際共同教育プログラムを大学院環境生命自然科学研究科で実施している。本プログラムの実施を通して、双方向の留学を伴う DDP 設置に向けた協議を行い、2026年度から新たな DDP を設置することを目指している。そこで、授業料相互不徴収型 DDP 履修日本人学生数を任意指標の一つとする。

本事業のアウトカムに関する任意指標:

(指標 4) JV-Campus で公開する新規 COIL 学習コンテンツ数

岡山大学は既に JV-Campus に参加し、いくつかの学習コンテンツを掲載しているが、COIL 学習コンテンツに活用できるものは限られている。そこで、上記(指標1)の実施を通して COIL 学習コンテンツを作成し、JV-Campus で公開することとする。その年度で新たに公開された COIL 学習コンテンツ数を任意指標の一つとする。

(指標 5) 国際共創特別研究実施に伴う日欧共同研究数

岡山大学では、これまでも日欧間で共同研究を実施してきているが、本事業で実施する国際共創特別研究(上記(指標2))を通して、共同研究数の増加が見込める。そこで、その国際共創特別研究実施に伴う日欧共同研究数を任意指標の一つとする。

(指標 6) 本事業実施に伴う日欧国際共著論文数

岡山大学では、これまでも日欧間で共同研究の成果として国際共著論文を公表している。本事業のアウトカムは、日欧ネットワークの形成による国際的共育共創の実現であり、上記(指標3)に掲げる DDP などより強力な日欧ネットワーク形成が期待できる。そこで、本事業実施に伴う日欧国際共著論文数を任意指標の一つとする。

(設定指標)

	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
(指標 1) COIL 実施科目数	1	3	3	3	2
(指標 2) 国際共創特別研究を実施するカウンターパート大学数	3	3	3	3	3
(指標 3) DDP 履修日本人学生数	0	0	2	4	5
(指標 4) JV-Campus で公開する COIL コンテンツ数	1	3	3	3	2
(指標 5) 国際共創特別研究実施に伴う日欧共同研究数	3	5	5	5	5
(指標 6) 日欧国際共著論文数	0	1	2	2	2

(大学名:岡山大学) (タイプ: A)

【計画内容】

本事業のアウトプットに関する任意指標:**(指標 1) 欧州の学生と協働する国際共育 COIL 科目実施数**

本事業が採択される 2024 年度には、導入科目「生殖環境科学入門」の特別開講を予定しており、日欧双方の教員・学生の協働による COIL を主体とした科目を実施する予定にしている。2025 年度以降は、年度前半(1 学期)に前年度入学生の履修を想定した専門科目「生殖科学」および「環境化学」を、同様に COIL 主体科目として、新たに設けるとともに、年度後半(3 学期)に当該年度入学生の履修を想定した導入科目「生殖環境科学入門」を実施する。実派遣学生および実受入学生はそれぞれ渡航先(の大学)から受講する。

(指標 2) 国際共創特別研究を実施するカウンターパート大学数

特別研究として、2024 年度には 3 名の学生を少なくともムルシア大学(スペイン)、トゥールーズ第 3 ポール・サバティエ大学(フランス)またはソルボンヌ大学(フランス)の研究室に派遣するとともに、同数の学生を受け入れる予定である。2025 年度以降は、新規に 5 名の学生(前年度からの継続派遣学生を含めると 8 名)を本事業に参加するパートナー大学に派遣するとともに、同数の学生を受け入れる予定である。

(指標 3) ダブル・ディグリー等共同教育プログラム(DDP;授業料相互不徴収型)履修日本人学生数

本事業では、2026 年度から新たな DDP を設置することを目指している。2026 年度および 2027 年度は既に協議を開始しているムルシア大学に特別研究に派遣予定の学生のうち 2 名がそれぞれ新規にこの DDP を履修することを想定(2026 年度 M1 学生 2 名、2027 年度 M2 学生 2 名および M1 学生 2 名)している。2028 年度は、トゥールーズ第 3 ポール・サバティエ大学およびソルボンヌ大学でも同様に DDP が開始されることを期待してさらに 1 名の履修者増を見込んでいる。

本事業のアウトカムに関する任意指標:**(指標 4) JV-Campus で公開する新規 COIL 学習コンテンツ数**

上記(指標 1)で開講する COIL 科目開講を通して、JV-Campus での公開を想定した COIL 学習コンテンツ(検討資料およびクラスでの議論記録他)の作成を予定している。開講科目数を同数の COIL 学習コンテンツ作成および JV-Campus での公開を目指す。次年度の COIL 科目開講時には、受講生全員に JV-Campus を通して前年度のコンテンツをクラス外で学ぶことを求めることで、議論をより高いレベルから開始するなど、COIL 学習の質向上に役立てる。

(指標 5) 国際共創特別研究実施に伴う日欧共同研究数

本事業で実施する国際共創特別研究(上記(指標 2))で当該年度に新規に派遣する学生数以上の共同研究数の増加が見込めることから、その学生数と同じ数を指標とした。同様に国際共創特別研究で派遣学生と同数の受入学生が研究室で特別研究に従事するが、同じ研究室で派遣受入を行っている場合、同一の共同研究テーマになることが予想されるため、派遣受入学生の総数(派遣学生数の 2 倍)を指標とはせず、派遣学生数を任意指標としている。

(指標 6) 本事業実施に伴う日欧国際共著論文数

上記(指標 5)に掲げる国際共創特別研究実施に伴う日欧共同研究(国際共創特別研究で派遣学生)の約 3 割が翌年に研究成果をまとめ、国際共著論文として公表されると見積もっている(2025 年度 1 件、2026 年度以降各 2 件)。

(大学名: 岡山大学) (タイプ: A)

⑩ 加点事項に関する取組【2 ページ以内】
【実績・準備状況】 ○将来の先端分野における国際共同研究や共同学位等の土台となるような、通常の大学間交流を超える総合的・互恵的な関係性を持つ海外相手大学との戦略的な国際ネットワークやパートナーシップを構築する計画となっているか。 本申請は、岡山大学がこれまで EU の Marie Skłodowska-Curie Actions Innovation Training Networks (ITN)プログラム”Rep-Biotech”や Erasmus+プログラム、JASSO の海外留学支援制度(協定派遣および協定受入)などを活用した大学院生の派遣・受入事業により、交流を深めてきたムルシア大学やトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学、ソルボンヌ大学をはじめとする欧州の大学とのこれまでの交流実績を、複数の研究科(環境生命自然科学研究科、ヘルスシステム統合科学研究科、医歯薬学総合研究科、保健学研究科)による大学レベルの博士前期(修士)課程における国際交流プログラムへ発展させるものである。人類の活動により脅かされる地球上の“生殖”に生殖科学・環境化学的アプローチを試みる中で AI や遺伝子編集等のバイオ技術の開発を含む教育研究で強化するネットワークによる国際共同研究やダブルディグリープログラムへと展開する計画を含んでいる。本申請プログラムのパートナーであるムルシア大学は遺伝子編集家畜の生産に関して欧州の中心の一つであり、生殖補助医療技術や生殖細胞の顕微操作技術への AI 導入についても大きなプロジェクトに挑戦中である。岡山大学でも農工連携により同様の研究を行っており、共同研究への発展が期待できる。 ○EU 諸国等の大学等と、学生交流だけでなく積極的な教職員交流を実施する計画となっているか。 本計画では、毎年、当該分野の若手教員に COIL 授業に参加を促すだけでなく、教職員をパートナー校と交換し、現地での COIL 授業やセミナー、共同研究、教育研究管理に実践的参加することを計画しており、学生交流だけでなく教職員の FD を含めた持続可能で戦略的な国際交流プログラムとなっている。 ○JV-Campus にコンテンツを提供する、もしくは他大学から提供されるコンテンツを有効活用する等、交流プログラムにおいて JV-Campus を積極的に活用する計画となっているか。 上述(⑨)の通り、既に JV-Campus に参加済でコンテンツも掲示しているが、本事業のアウトカムに関する任意指標(指標 4)に JV-Campus で公開する新規 COIL 学習コンテンツ数を掲げ、COIL での利用も計画している。 ○アウトカムに関する指標について、他大学の参考となる指標が設定されているか。 これまでの交流でいくつかの共同研究を実施し、既にいくつかの国際共著論文を公表している。本交流プログラムでは、これらを更に推し進めるアウトカムを得るために、上述(⑨)の通り、本事業のアウトカムに関する任意指標を3つ掲げている。 ○国内連携大学・海外相手大学や機関等と協同し、学修歴やインターンシップ等の正課外の活動歴等のデジタル化、マイクロレディンシャルを進める計画となっているか。 岡山大学では、国際化戦略の中でマイクロレディンシャルの整備を掲げており、カウンターパート大学におけるシステムの状況の聞き取りを開始したところである。 ○交流する相互の学生が、真の両国間の架け橋となる人材を目指し、双方の文化及び言語について高いレベルで習得する計画となっているか。 岡山大学では、留学生と日本人学生の交流・共創の場として L-Café を整備しており、吉備地域の日本文化に触れるなど、様々な交流メニューが企画実施されている。岡山大学に受入学生は実体験として、現地からの参加者は Web を通した仮想体験として多様な交流プログラムに参加できるよう工夫する。また、派遣学生は、現地での留学生向けプログラムに積極的に参加することで文化や言語の理解につながるよう配慮される。 【計画内容】 ○将来の先端分野における国際共同研究や共同学位等の土台となるような、通常の大学間交流を超える総合的・互恵的な関係性を持つ海外相手大学との戦略的な国際ネットワークやパートナーシップを構築する計画となっているか。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

本申請プログラムの特別研究による派遣・受入を通して、遺伝子編集に関する研究や生殖補助医療技術や生殖細胞の顕微操作技術への AI 導入に関する共同研究プロジェクトに双方の学生・教員が関わる。また、既に AI の導入に向けた取り組みをしている日欧双方の生殖補助医療機関や関係企業でのインターンシップや訪問をも含むダブルディグリープログラムの構築を目指す。

○EU 諸国等の大学等と、学生交流だけでなく積極的な教職員交流を実施する計画となっているか。

本計画では、毎年、関係する研究分野の若手教員に COIL 授業への参加を促すだけでなく、教職員をパートナー校との間で派遣・受入(2024～2025 年度6名、2026～2028 年度4名)し、現地での COIL 授業やセミナー、共同研究、教育研究管理に実践的参加を実践することを計画している。

○JV-Campus にコンテンツを提供する、もしくは他大学から提供されるコンテンツを有効活用する等、交流プログラムにおいて JV-Campus を積極的に活用する計画となっているか。

上述(⑨)の通り、本事業のアウトカムに関する任意指標(指標 4)に JV-Campus で公開する新規 COIL 学習コンテンツ数(⑨の設定指標表参照)を掲げ、導入科目「生殖環境科学入門」および専門科目「生殖科学」、「環境化学」での COIL に利用することを計画している。

○アウトカムに関する指標について、他大学の参考となる指標が設定されているか。

上述(⑨)の通り、本事業のアウトカムに関する任意指標を3つ(⑨の設定指標表参照)掲げている。これらは全て、博士前期(修士)課程における国際交流プログラムが COIL による国際交流教育および国際共同研究によってもたらされることが期待できるアウトカムとなっている。

○国内連携大学・海外相手大学や機関等と協同し、学修歴やインターンシップ等の正課外の活動歴等のデジタル化、マイクロクレデンシャルを進める計画となっているか。

本プログラムの実施を契機に、カウンターパートの大学におけるシステムを参考にした検討を開始し、本プログラム修了までにその仕組みを本プログラム内で構築する。

○交流する相互の学生が、真の両国間の架け橋となる人材を目指し、双方の文化及び言語について高いレベルで習得する計画となっているか。

本プログラムの受入は、留学生と日本人学生の交流・共創の場として整備されている L-Café の利用と日本文化に触れる各種交流メニューへの積極的な参加を進めるとともに、現地からの Web 参加者に対しても Web を通した仮想体験として多様な交流プログラムに参加できるよう工夫する。また、派遣学生には、カウンターパート大学での留学生向けプログラムに積極的に参加するよう指導するとともに、相手側教職員にも配慮を依頼する。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備【①～③合わせて3ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

岡山大学では国際部留学交流課で留学生受入・日本人学生派遣支援を行っている。また、指導教員や留学支援担当教職員が、派遣前から帰国後まで一貫して担当校の情報提供や留学指導を担っている。具体的には、指導教員は派遣学生に対して主として研究面でのアドバイスと支援を行い、担当教職員が現地の文化や習慣に関する教育、危機・健康管理の指導を行っている。

○ 渡航前の学生自身の危機管理意識・能力の向上のための教育

日本人学生の海外派遣者に対し、渡航前に大学で実施する危機管理ガイダンス・海外旅行保険説明会及び岡山大学海外安全マニュアルを必携としている。また、渡航前に行う学生指導等の手続を指導教員が円滑に進めるために LMS 上にコンテンツを整備している。

○ 日本人学生に対するサポート

本学グローバル人材育成院教員が部局指導教員と連携して留学前から留学後に至る履修アドバイザーとして留学前の履修計画の指導、留学中はマンスリーレポートによる修学・生活状況の把握、留学後は報告会での留学の成果を評価している。国際部では、留学経験のある学生を留学相談員として雇用し「留学準備デスク」を運営、学生の留学相談対応や情報提供、渡航支援等を行っている。令和元年度より、留学経験者と受入留学生のデータベース化を開始し、留学を希望する学生と留学経験者のマッチングシステムを構築し、留学前から帰国までのネットワークを活用した支援体制を整備した。

○ 学生の履修に関する情報提供の体制

本学の学生及び保護者向けに留学ガイダンス冊子「留学のススメ」及びパンフレット「留学のススメパンフレット」を発行し、適切な手続きを取れるよう情報を提示、国際部で説明している。

○ 産業界や自治体との連携

令和4年度には、前年度に JETRO が大学と締結する協定で初めて岡山県商工会議所連合会と本学の3者による包括協定を締結したことにより、日本人学生を主としたグローバル人材育成特別コースの授業における産業界からの講師派遣を実施した。

○ 国内外でのインターンシップ等による就業体験の機会確保や産業界や自治体との連携

令和5年度より、岡山大学教育推進機構内に大学院共有共創センターが設置され、大学院生のキャリア支援ならびに大学院共通科目である社会実践科目の履修指導・支援を行っている。この組織に所属するコーディネータにより、大学院生一人一人の就業体験の機会確保、特に、外国人学生の国内就職支援を行っており、県内産業界との橋渡しも担っている。

【計画内容】

本交流プログラムでは、上記の実績・準備状況で整えている留学生受入・日本人学生派遣の枠組みを基本として、さらに充実させ実施する。

具体的には、各指導教員・受入教員と実施委員会・各研究科との連携を強化するとともに、新たに配置するインターンシップコーディネータと各研究科や特別プログラムおよびパートナー大学で構築したネットワークを行使して、特別研究およびインターンシップを構築するとともに、マンスリーレポートと学生とのヒアリング(Webを含む)と、連携した組織的コミュニケーションにより、工程管理を確実にする。さらに、本学国際プログラム修了生を支援員として任命し、現地と本学学生との緊密連絡を行う。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

○ 支援員の配置、奨学金情報の提供、言語・生活サポート等

岡山大学国際部留学交流課が、全受入留学生に対する渡日支援、宿舎の手配、生活支援等を実施している。また、教育推進機構で留学生向けの日本語教育を実施している。また、岡山大学が設置している L-Café および留学生相談室で、留学生と日本人学生の交流の場を通じた互いの情報交換や生活相談を気軽にできる環境を提供している。

○ 在籍管理体制

本学では、外国人留学生(留学ビザを持たない外国人学生含む)も学務システムで在籍管理(学籍、履修、在留資格など)を行っている。また、1 か月未満の短期学習者であっても、外国人短期滞在者登録システムを用いて把握している。さらに、成績不良、長期欠席、所在不明等の場合は、受入部局から国際部

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

に報告され、適宜、文部科学省・出入国在留管理庁に報告できる体制になっている。

○各種サポート体制

外国人留学生には、受入指導教員が在学中の履修指導・生活指導を行っている。授業はTAを配置でき、新規渡日時にはチューター学生を配置し、学習面や生活面でのサポートが可能である。国際部では、生活オリエンテーション、チューター制度、奨学金支給のための月毎の在籍確認による学生の修学状況を把握し、受入部局と連携して指導・サポートを行っている。岡山大学では留学生専用宿舎を有しており、新規渡日の受入留学生を優先的に宿舎へ入居させる。外国人留学生には、新入留学生のための準備ガイドを作成し、学内外の諸手続き、カウンセリング、宿舎など学生生活情報を提供している。国際部・学務部からの学内教職員・学生向け通知はすべて日本語・英語併記で行っている。留学生向けの就職支援は、高大接続・学生支援センターのキャリア・学生支援室から日本人学生と同様の情報提供と相談体制が提供されている。

○学生の履修に支障がないよう十分な情報提供を行う体制

短期留学プログラムの実施にあたって、その年のプログラムで開講する科目をシラバスに掲載し、単位認定可能な科目、履修体系・順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違・時差等について、協定校へ通知して事前に留学希望者へ説明できる資料を提供している。渡日後には、アカデミック・アドバイザーと職員が履修指導を一体的に行い、手続きを円滑に進めている。本学では、EU 諸国からの短期留学生を多数受入れた実績があり、本学大学院で取得した単位の本国大学院への単位算入方法が整備されている。

○産業界や自治体との連携

各大学院では、EU 諸国から多数の研究インターンシップ生の受入実績があり、それに伴う単位認定・互換システムもすでに整備されている。JETRO および岡山県商工会議所連合会と三者包括協定による、留学生のキャリアセミナーへの JETRO による講師派遣と企業の見学を含めた授業を行っている。また、外国人学生向けに、JETRO の高度外国人材活躍推進ポータル説明会、岡山県産業振興財団のアジア留学生ビジネスネットワーク構築支援事業説明会、インターンシップなどを提供している。

【計画内容】

本交流プログラムでは、上記の実績・準備状況で整備した外国人学生受入の枠組みを基本として、さらに充実させ実施する。具体的には、各受入教員・パートナー大学指導教員と実施委員会・各研究科との連携を強化するとともに、マンスリーレポートと学生とのヒアリングと、連携した組織的コミュニケーションにより、受入管理を確実にする。岡山経済同友会や岡山商工会議所、既存のプログラムで培った（医療機関を含む）ネットワークを通じた本学大学院インターンシップ実施企業に個別交渉し、留学生の受入プログラム提供を行う。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

○ 関係大学間の連絡・情報共有体制

これまでの交流や事前打合せにより、パートナー大学のカウンターパート教員団はじめ、大学執行部・国際担当部とのネットワークにより、円滑・適切に連絡・情報共有できる体制が既に構築されている。

○ 留学中の安全管理体制及び緊急時、災害時のリスク管理

海外滞在中の学生を把握するために、学生が海外に渡航する場合、オンライン（派遣留学支援・海外渡航登録システム）での登録をさせ、海外での災害、テロ・感染症等の緊急事態が発生した場合に注意喚起や安否確認を迅速に行っている。海外滞在中の安全管理を行うため、グローバル人材育成院の留学アドバイザーは本人と協定校の受入担当職員との連携がとれるよう連絡体制をもって対応している。緊急時、災害時に備え、海外旅行保険（学研災付帯海外留学保険）への加入を義務付け、J-TAS（JCSOSTotal Assistance Service）に加入して事件・事故発生時の大学への支援（マスコミ・保護者・保険会社等関係各所との折衝）や学生への支援（ケガ・病気・事件・事故等発生時に現地病院、搬送手段を選定手配や通訳 24 時間対応の緊急時の窓口海外危機管理サポートデスクと海外での健康相談サービス）が受けられるようにしている。国内では、ANPIC への登録を義務付け、同様のリスク管理を行っている。また、学生の留学（海外派遣）に関する危機管理を重視した感染症対策・治安対策のリスクアセスメント及び業務影響分析（BIA）の実施、業務継続戦略（BCS）の策定等について整備をはかり、令和 5 年 5 月には感染症レベルに応じた本学のリスクアセスメントの対応を定めた。

○ 同窓会ネットワーク、継続的サポート体制

（大学名：岡山大学）（タイプ： A）

本学には卒業・修了した留学生を主な会員として国際同窓会(事務局:国際部)が平成 24 年度に設立されて以来、28 か国に 55 支部(7 通信拠点含む)が設立され 4,000 人を超える同窓生が登録されている。短期留学の在籍者も会員資格を有する。会員に対しては、同窓会ホームページ、Facebook などの SNS を通じて本学のニュースやイベントを掲載、また、毎年ホームカミングデーに合わせて、ニュースレターを作成し同窓会の近況を報告、同窓会総会を開催し支部の代表者の招聘など本学との交流を継続している。

【計画内容】

本交流プログラムでは、上記の実績・準備状況で整えている関係大学間連絡体制の枠組みを基本として、さらに充実させ実施する。

具体的には、本事業で新設する日欧先駆人材育成プログラム実施委員会を中心とした連絡・情報共有体制を整え、各大学に組織する実施委員会との連携の中で運営する。留学中の安全管理体制及び緊急時、災害時のリスク管理については、上述の派遣留学支援・海外渡航登録システムおよび日本国内での ANPIC をはじめとした受入システムでのサポートをはじめ、留学アドバイザーの連絡体制及び緊急時のための海外旅行保険、海外危機管理サポートデスク、健康相談サービスを本プログラムでも実施する。また、本プログラムのために新たに開設する HP や SNS グループ上で本プログラムに参加する学生と(岡山大学およびパートナー大学の)教職員間の交流の場を設ける(これまでに参加した OBOG も招待して、コミュニティを形成)とともに、上述の国際同窓会への入会を奨励し、より大きなネットワーク形成に向け工夫する。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

プログラムの実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及【①、②合わせて2ページ以内】
① プログラムの実施に伴う大学の国際化
【実績・準備状況】
上述の通り、これまで本学の各部局で EU の Marie Skłodowska-Curie Actions Innovation Training Networks (ITN)プログラム”Rep-Biotech”や Erasmus+プログラム、JASSO の海外留学支援制度(協定派遣および協定受入)を活用した大学院生の派遣・受入事業を通して、本事業のパートナー大学との学術交流を深め、日欧ネットワークを培ってきた。また、特別研究やインターンシップを試行し、本プログラムによる大学間交流への準備を整えている。
【計画内容】
本事業に参加する各大学に学内実施委員会を組織するとともに、全体的な実施委員会(日欧先駆人材育成プログラム実施委員会)および外部評価委員会を組織することで質保証を伴う事業とする。また、年度進行中に生殖補助医療技術関係のプログラムを有する大学や関係領域に興味を持つ大学の参加を促す予定である。先ずは Web を活用したハイブリッド授業(COIL による生殖環境科学入門、生殖科学、環境化学)への参加を募り、試行的に科目等履修生として受け入れ、状況が整えば、単位互換を図る。また、上記各委員会間のコミュニケーションやモビリティを高めることで、柔軟性が高く、発展的な質保証の伴った大学間交流の戦略的充実発展が図られることを期待している。また、本プログラムへの日欧双方の若手教職員の積極的参加と交流を実践することを通して、参加大学における組織的教育研究連携の継続的維持を可能にする。 本プログラムでは、インターンシップコーディネータに加え、英語によるコミュニケーションが可能な事務補佐員1名の新規雇用・配置を予定している。なお、英語力に長けた職員が配置されており、外国人教員や留学生との円滑なコミュニケーションには問題はないと思われる。一方、上述の、留学生と日本人学生の交流・共創の場として整備されているL-Caféでは、英語やフランス語、スペイン語を含むさまざまな言語を学びたい教職員に向けた学習プログラムも提供している。当該事務補佐員を含む本プログラム関係教職員にも、このプログラムの積極的な利用を促し、外国人教員や留学生との円滑で高度なコミュニケーションが図れる環境を整える。 また、交流にかかる業務が一部の教職員に偏らないよう、岡山大学内に新設する岡山大学日欧先駆人材育成プログラム実施委員会および事務方で、本プログラムを組織的にサポートする全学的体制を充実させる。
② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及
【実績・準備状況】
岡山大学は、日本語・英語による HP を充実させ、中央教育審議会が掲げる“国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例”を参考に、それらの情報を国内外に公開するとともに、Instagram や X、Facebook などの SNS での情報展開も積極的に行っている。また毎年、統合報告書を作成するとともに、公開シンポジウムを開催するなどして、様々なステークホルダーに向けたシステムチックな情報公開も行っている。
【計画内容】
上記の大学・各研究科 HP や各種 SNS を通して、さらには新たに設ける本プログラム独自の HP を通して、本事業の活動情報を日本語および英語で日常的に発信する。その他、本プログラムでは、2025年度より毎夏季に、前年度事業および進行中の事業について、外部評価委員会および成果発表を含むシンポジウムを開催(英語での開催を予定)することにしており、外部評価委員や学内関係者、パートナー大学関係教員だけでなく、国内外の大学や関係産業関係者への情報公開を積極的に行うことで、ネットワークの拡大や成果の普及に役立てる。また、その外部評価委員会での意見を含む各種情報は上記 HP を通して国内外に公表する。また、本プログラムに掲げる各指標は、上記の中央教育審議会が掲げる“国際的な大学評価活動の展開状況や我が国の大学に関する情報の海外発信の観点から公表が望まれる項目の例”と重なる部分も存在することから、これらの情報公開内容の充実を一層図る。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名
(国名)

ムルシア大学 (スペイン)

① 交流実績 (交流の背景)

岡山大学は、2006 年に自然科学研究科とムルシア大学獣医学部との部局間交流協定を締結し、2013 年に大学間交流協定へ交流範囲を拡大し今日に至っている。2013 年以前の7年間では、教員受入 7 名 (1～2 か月)、教員派遣 8 名 (7 日～1 か月)、大学院生受入 13 名 (1～3 か月)、大学院生派遣 2 名 (3 か月) と、EU の Erasmus プログラムや JASSO の海外留学支援制度 (協定派遣および協定受入) を活用した教員交流や大学院生受入が活発であったが、大学間交流協定を締結した2013年以降、教員受入5名、教員派遣8名、大学院生受入14名 (2～5 か月)、大学院生派遣6名 (3 か月) と、EU の Marie Skłodowska-Curie Actions Innovation Training Networks (ITN) プログラム ”Rep-Biotech” や Erasmus+ プログラム、JASSO の海外留学支援制度 (協定派遣および協定受入) を活用した大学院生の派遣・受入を強化した交流を行ってきた。受入大学院生については特別研究 (修士論文・博士論文) の一部を岡山大学で実施し、派遣大学院生については、特別研究 (修士論文) に必要な技術習得や現地生殖補助医療施設など関係機関の見学を含む内容を実施している。ムルシア大学獣医学部が基幹校となり採択された EU Marie Skłodowska-Curie Actions Innovation Training Networks (ITN) ”Rep-Biotech” プログラムで 2018 年度に受け入れた博士課程学生2名は修了時に高い評価を受け、うち1名は現在、理化学研究所神戸キャンパスで研究員として活躍中である。また、受入大学院生の中には、日欧の大学院博士 (後期) 課程を修了後、日欧の大学で職を得て活躍している者もいる (うち1名は、ムルシア大学獣医学部修士課程修了後、岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了後に岡山大学特任助教を経て、現在、東京農工大学特任助教として活躍中である)。

② 交流に向けた準備状況

ムルシア大学獣医学部は、より長期の派遣によるインターンシップや特別研究を充実させるために、これまで1年制であった修士課程プログラムに加えて、本プログラムに係る2年制修士課程プログラム (Master in Biology and Technology of Reproduction: <https://www.um.es/web/estudios/masteres/bio-techno-mamiferos>) を新設し、国内外の機関・施設 (岡山大学 (日本)、ダブリンカレッジ大学 (アイルランド)、リマリック大学 (アイルランド)、ゲント大学 (ベルギー)、ミズーリ大学 (米国)、ノースダコタ大学 (米国) 他、IVIRMA GLOBAL 他) の生殖時補助医療機関、INRA (フランス) などの研究機関) への大学院生の中長期派遣を可能にしている。本プログラムへの応募に向けた事前打ち合わせのため、本年3月に岡山大学の教員1名がムルシア大学を訪問し、国際担当副学長および関係教員と面談を行い、交流プログラムの打ち合わせおよび申請への了承を得ており、本プログラム実施に向けた両機関間の準備は既に整備されている。また、ムルシア大学では本年3月から EU の Marie Skłodowska-Curie Actions (MSCA) の新たな博士課程プログラムとして Advancing Fertility and Reproduction through Dedicated and Innovative Technological Applications (右図) が採択されており、欧州での新たな生殖科学ネットワークを構築している。本修士プログラムは、これらのネットワークとの接続やそれへの拡大にとっても日欧双方に魅力的である。



(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

 相手大学名
(国名)

 トゥールーズ第3ポール・サバティエ大学
(フランス)

① 交流実績（交流の背景）

両大学間の交流は、2000年代に本学理学部化学科錯体化学研究室とトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学内の CNRS 配位化学研究所において実施された共同研究から始まっている。遷移金属及びランタノイド多核錯体の構造と磁気的性質の解明を主題とした共同研究において、研究者及び大学院生の相互派遣・受入が開始された。また、本学大学院修士課程の卒業生が、ポール・サバティエ大学に教授として勤務しており、専門とする有機化学分野において本学の大学院環境生命自然科学研究科の有機化学関連研究室と長年にわたり交流を行っていた。これらの共同研究及び研究室間交流を背景として、2017年、本学側の錯体化学研究室担当教員とポール・サバティエ大学の国際担当教員及び本学出身教員が実施責任者となり、正式に大学間協定を締結して交流を全学的に拡大した。この後、研究室間の共同研究の実施、研究者の相互派遣(セミナー等の実施)に加えて、博士前期課程大学院生の研究インターンシップ(3ヶ月～6ヶ月)を双方向で実施している。(実績:派遣3名、受入1名)。

また、上記とは別に、大学間協定に基づく学生交流として、2020年以來ほぼ毎年1名以上の特別学士プログラムの最終学年生を3～4ヶ月間、理学部の研究室での研究インターンシップを含む特別聴講学生として受け入れている。(実績:受入4名)

② 交流に向けた準備状況

本プログラムの実施にあたり、本学とトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学側の大学間協定実施責任者間で、合同オンライン授業の構築や研究留学・インターンシップとしての学生派遣の準備調整を進めている。両大学の実施責任者はともに化学を専門とする教員であるが、生殖・環境科学を中心とする本プログラムに主体的に参加できる動物科学・生命科学・物質科学分野の教員とも容易に協力依頼し、実施組織編成ができる体制を整えている。

オンライン教育コンテンツの作成及びそれを用いたオンライン授業については、本学がイニシアチブをとって実施するが、授業実施のパートナー大学として、受講生の参加も含めて協力を依頼する。特に、学生間のディスカッションを中心とするオンライン授業では、日本、スペイン、フランスの3カ国以上の学生が共修することにより異文化理解の効果が高まるため、積極的な参加を期待しており、学生に対して推薦していただく。

大学院生の長期研究留学および研究インターンシップについては、希望者(学生)と実施研究室(教員)のマッチングが重要であり、その任を担うポール・サバティエ大学の国際担当教員に協力依頼し、快諾を得ている。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

交流プログラムを実施する海外相手大学について【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

 相手大学名
(国名)

 ソルボンヌ大学
(フランス)

① 交流実績（交流の背景）

ソルボンヌ大学の前身であるピエール・マリイ・キュリー大学 (UPMC) と岡山大学の活発な交流は、2014 年に本学 URA として B. Chenevier 博士が着任して以降、特に物理・化学・生物分野で活発に行われるようになった。この背景には、先方大学の化学分野における国際交流担当者が、本学で JSPS 外国人博士研究員として滞在経験を持つ A.-L. Poquet 博士であったこともある。両氏の尽力により 2015 年より本学と UPMC は大学間協定に基づく大学院生の相互派遣交流を開始した。また、UPMC において本学を対象校の1つとする Erasmus+ IMC プログラムが採択され、この後、研究者、国際担当職員及び大学院生の交流が年々活発に行われている。Erasmus+ IMC の支援を受けた 2018/2019 年は、派遣研究者 2 名、派遣大学院生 4 名、受入教職員 3 名、受入大学院生 4 名の交流を実現した。その後、先方大学の統合により校名がソルボンヌ大学に変更になったが、大学間協定は更新を行い、交流分野にコンピュータサイエンス、海洋科学分野を加え交流を継続している。2021/2022 年度は、ソルボンヌ大学からの派遣奨学金の支援もあったため、5 名の大学院生を派遣した。一方、大学院生の受入は、コロナ禍以降、特に2～8ヶ月の研究インターンシップを実施する大学院生の派遣 (2023 年度 2 名、2024 年度 1 名予定)・受入 (2022 年度 6 名、2023 年度 10 名、2024 年度 18 名予定) において活発である。

② 交流に向けた準備状況

本プログラムの実施にあたり、本学とソルボンヌ大学側の大学間協定実施責任者間で、合同オンライン授業の構築や研究留学・インターンシップとしての学生派遣の準備調整を進めている。両大学の実施責任者はともに化学を専門とする教員であるが、生殖・環境科学を中心とする本プログラムに主体的に参加できる動物科学・生命科学・物質科学分野の教員とも容易に協力依頼し、実施組織編成ができる体制を整えている。

オンライン教育コンテンツの作成及びそれを用いたオンライン授業については、本学がイニシアチブをとって実施するが、授業実施のパートナー大学として、受講生の参加も含めて協力を依頼する。特に、学生間のディスカッションを中心とするオンライン授業では、日本、スペイン、フランスの3カ国以上の学生が共修することにより異文化理解の効果が高まるため、積極的な参加を期待しており、学生に対して推薦していただく。

大学院生の長期研究留学および研究インターンシップについては、希望者 (学生) と実施研究室 (教員) のマッチングが重要であり、その任を担うソルボンヌ大学の国際担当教員に協力依頼し、快諾を得ている。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

プログラム計画の実現性、プログラムの発展性、交流プログラムの質の向上のための評価体制【①は1ページ以内、②～④は合わせて3ページ以内】

① 年度別実施計画

【2024 年度（申請時の準備状況も記載）】

申請時の準備状況

- 岡山大学内の関係研究科との事業構想意見交換・打合せ。岡山大学教員とムルシア大学国際担当副学長および同大学獣医学部・医学部関係教員との面談・オンラインによる打合せ（プログラム計画に関するブレーンストーミングおよびプログラム内容確認）。岡山大学教員とトゥールーズ第3ポール・サバティエ大学およびソルボンヌ大学教員とのオンラインによる打合せ。2023年度にムルシア大学に派遣した大学院生へのヒアリング

2024年度（採択直後～）

- プログラム実施委員会（全体および岡山大学内：事務補佐員雇用）、外部評価委員会立ち上げ
- インターンシップコーディネータ任命とインターンシップ受入実施内容確定
- 2024 年度特別研究と秋季インターンシップの派遣・受入（事前ヒアリング・指導実施、カウンセリング・指導含む）、秋季インターンシップ成果発表会開催（実施委員会開催）
- 2024 年度導入科目「生殖環境科学入門」特別開講、COIL 教材コンテンツ作成・JV-Campus 公開
- 教職員派遣・受入、ダブル・ディグリー化協議（教員派遣）、2024 年度活動報告書作成

【2025 年度】

- 特別研究派遣・受入継続と春季インターンシップ派遣・受入、成果発表会開催（実施委員会開催）
- 2025 年度専門科目「生殖科学」「環境化学」開講、COIL 教材コンテンツ作成と JV-Campus 公開
- 成果発表会開催に合わせ外部評価委員会・シンポジウム開催、プログラム内容検証修正
- 2025 年度特別研究派遣・受入と秋季インターンシップの派遣・受入・成果発表会開催
- 2025 年度導入科目「生殖環境科学入門」開講、COIL 教材コンテンツ作成と JV-Campus 公開
- 教職員派遣・受入、ダブル・ディグリー化協議（教員派遣）、2025 年度活動報告書の作成

【2026 年度】

- 中間評価に基づく事業修正（成果発表会開催に合わせ外部評価委員会でも対応協議）
- その他各事業（ダブル・ディグリー協議は行わず、同プログラムの開始以外）は 2025 年度と同じ
- 2026 年度活動報告書の作成

【2027 年度】

- 中間評価に基づく事業修正検証（成果発表会開催に合わせ外部評価委員会でも協議）
- その他の各事業内容は 2025 年度と同じ
- 2027 年度活動報告書の作成

【2028 年度】

- 春季インターンシップ派遣・受入、成果発表会開催（実施委員会開催）
- 特別研究派遣・受入の指導継続、同学生の成果発表会開催（実施委員会開催）
- 2028 年度専門科目「生殖科学」と「環境化学」開講、COIL 教材コンテンツ作成と JV-Campus 公開
- 成果発表会開催に合わせ外部評価委員会（総括）・事業成果公表シンポジウム開催
- 特別研究派遣・受入、秋季インターンシップ派遣・受入、成果発表会開催（実施委員会開催）
- 教職員派遣・受入
- 外部評価結果を含む最終活動報告書の作成と公表

（大学名：岡山大学）（タイプ： A）

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

本交流プログラムの質の向上のための評価体制については、様式1の②「プログラムの概念図」および④「交流プログラムの内容及び大学間交流の枠組み形成」の中で図示している通り、全体的には、新設する「日欧先駆人材育成プログラム実施委員会」において、各大学で内部質保証に基づいて年度成果報告書を作成されたものを取りまとめ、毎年夏期に開催される外部評価委員会で評価されたものを基にプログラムの質向上を図る。岡山大学内においては同様に新設される「岡山大学日欧先駆人材育成プログラム実施委員会」で自己点検評価を含む内部質保証を実施し、年度末に成果報告書にとりまとめる。自己点検評価に加え、外部評価委員会の評価意見を参考に、毎年プログラムの改善を行う。また、本交流プログラムで実施する学生の派遣・受入および COIL 授業は各研究科の「特別研究科目」、「プロジェクトマネジメント実習科目」および「専門科目」において単位化されることから、岡山大学が定める部局自己評価規定 (<https://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/tenken/pdf/kitei.pdf>) に基づいて各研究科が実施する自己点検評価や授業評価によるチェックや改善も受けることになるため、様々な観点から質の向上が図れる評価体制が整備される。

③ 補助期間終了後のプログラム展開

本交流プログラムは、補助期間終了後も構築したネットワークや交流の枠組みを維持し、岡山大学の新たな国際交流ロールモデルとして位置付ける。具体的には、本プログラムで開発する COIL 型授業科目（「生殖環境科学入門」、「生殖科学」、「環境化学」）を維持・発展させるとともに、この JV-Campus を活用した COIL 型授業科目を他の学術領域および新たな国や地域に拡大展開することで、世界の大学と連携した大学院レベルの教育研究を実現する。特に、地球規模の課題を理解し、それに取り組むためには、国際的な大学間ネットワークを利用した COIL 型教育が重要であり、様々な学術領域における導入科目で展開を図る。また、実際に現地へ赴き、海外で特別研究やインターンシップに取り組むことは、次世代先駆人材育成のみならず、大学レベルでの研究力の向上にも重要であり、本事業で実施する日欧ネットワークの枠組みでの特別研究やインターンシップをアジア・アフリカなどの他の地域に展開を図る。これらの展開を通して、本学の実質的な教育研究を伴う国際交流の実施、優秀留学生獲得の拡大につなげる。

④ 補助期間終了後のプログラム展開に向けた資金計画

上記③のプログラム展開を確実に進めるためには、学生の海外派遣受入支援のみならず、COIL 型授業科目での JV-Campus を活用したコンテンツ作成に資金が必要である。

前者の学生の海外派遣受入支援については、学内予算の充填に加え、JASSO の海外留学支援制度等の積極的活用を行う。さらに、本交流プログラムをさらに発展させたプログラムを構築することにより、我が国の国際交流プログラムへの応募や、カウンターパート大学との協力による Erasmus+プログラムなど EU 事業を始め、各国・地域が提供する各種プログラムへ応募を積極的に行うことにより、プログラム展開資金を確保する。加えて、岡山大学では過去 15 年以上、地元企業・団体の協力を得て、ベトナムからの留学生の里親として生活支援を得ることで大学院博士前期課程の国際プログラムを運用している。本交流プログラムのインターンシップを通して構築される国内外の関係企業・機関との連携ネットワークを充実させることで、これまでのノウハウを活用した、同様の支援を得たプログラムへの発展的展開を図ることで、自走型の学生の海外派遣受入支援を実現する。

後者の COIL 型授業科目での JV-Campus を活用したコンテンツ作成資金については、学内予算に加え、本交流プログラムのインターンシップを通して構築される国内外の関係企業・機関の協賛を得て自走化する計画である。その際、企業コマーシャルを含むコンテンツの可能性についても模索する予定である。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日)	ムルシア大学			国名	スペイン
	(英)	University of Murcia				
設置形態	公立			設置年		1915 年
設置者（学長等）	José Luján Alcaraz （Rector）					
学部等の構成	21 学部（Faculty：人文学、芸術学、法学、経済・経営学、情報学、心理学、教育学、コンピュータ科学、スポーツ科学、産業科学、生物学、数学、医学、化学、獣医学）の他、4 学校（School：ムルシア看護学校、カルタヘナ看護学校、社会福祉学校、観光学校）、73 の修士課程、36 の博士課程を有する					
学生数	総数	31,500	学部生数	30,000	大学院生数	1,500
受け入れている留学生数	1,082			日本からの留学生数		2
海外への派遣学生数	847			日本への派遣学生数		1
Web サイト（URL）	https://www.um.es					

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

<https://www.whed.net/institutions/IAU-017546>

IAU-017546 Spain
<https://www.whed.net/institutions/IAU-017546>

General Information

Address

Street: Edificio Convalecencia
Avenida Teniente Flomesta, s/n

City: Murcia

Post Code: 30003

WWW: <https://www.um.es>

Institution Funding: Public

History: Founded 1915, a State institution under the jurisdiction of the Ministry of Education and Science

Academic Year: October to June (October-December; January-March; April-June)

Admission Requirements: Secondary school certificate (bachiller) and pre-university examination (madurez)

Language(s): Spanish;English

Accrediting Agency: Ministry of Universities

Student Body: co-ed

Officers

Head: José Luján Alcaraz
Job title: Rector

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) トウールーズ第3ポール・サバティエ大学 (英) University of Toulouse III, Paul Sabatier	国名	フランス			
設置形態	公立	設置年	1970 年			
設置者（学長等）	Régine André-Obrecht （President）					
学部等の構成	学士：5 分野: Science, Health, Sports, Technology and Engineering. 大学院：10 分野：BSB(生物学、健康、バイオテクノロジー), GEETS(電気工学、電子工学、電気通信、健康), MITT(数学、コンピュータ科学、電気通信), SDM(物質科学), SDU2E(宇宙・環境・宇宙科学), SEVAB(生態学、獣医学、農学、生物工学), MEGEP(力学、エネルギー、土木工学、プロセス), EDSYS(システム), CLESCO(行動、言語、教育、社会化、認知), ALLPH@(芸術、文学、言語、哲学、コミュニケーション)					
学生数	総数	35,017	学部生数	18,909	大学院生数	16,108
受け入れている留学生数	4,128		日本からの留学生数	4		
海外への派遣学生数	597		日本への派遣学生数	14		
Web サイト（URL）	https://www.univ-tlse3.fr/home					

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

https://www.whed.net/institutions/IAU-019849





Toulouse III University Paul Sabatier
Université Toulouse III Paul Sabatier – COMUE Université Fédérale de Toulouse Midi-Pyrénées (UT3)

IAU-019849

France

General Information

General Information

Address

Street: 118, route de Narbonne

City: Toulouse

Post Code: 31062

WWW: <http://www.univ-tlse3.fr>

Institution Funding

Public

History

Founded 1970 under the 1968 law reforming higher education as one of three Universities replacing the former Université de Toulouse, that was itself founded in 1229. Member of the COMUE Université fédérale de Toulouse Midi-Pyrénées – Décret n° 2016-883 of 10th June 2016

Academic Year

September to June (September-January; February-June)

Admission Requirements

Secondary school certificate (Baccalauréat) or equivalent, or special entrance examination

Language(s)

French

Accrediting Agency

Ministry of Higher Education, Research and Innovation

Student Body

oo-ed

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

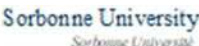
海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

① 交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) ソルボンヌ大学 (英) Sorbonne University	国名	フランス
設置形態	公立	設置年	2018 年 (統合)
設置者 (学長等)	Nathalie Drach-Temam (President)		
学部等の構成	3 Faculty (Science and Engineering, Health Sciences, Humanities) 学士課程 : 53 プログラム、修士課程 : 33 プログラム		
学生数	総数 20,651	学部生数 14,934	大学院生数 5,717
受け入れている留学生数	92 (Faculty of Science and Engineering)	日本からの留学生数	6 (Faculty of Science and Engineering)
海外への派遣学生数	297 (Faculty of Science and Engineering)	日本への派遣学生数	18 (Faculty of Science and Engineering)
Web サイト (URL)	https://www.sorbonne-universite.fr/en		

② 記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。
また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

<https://www.whed.net/institutions/IAU-019800>

IAU-019800
France

[General Information](#)

[General Information](#)

Address

Street: 21, rue de l'École de Médecine
City: Paris
Post Code: 75006
WWW: <https://www.sorbonne-universite.fr>

Institution Funding

Public

History

Founded 1970 under the 1968 law reforming higher education as one of the new Universities replacing the former Université de Paris (created in 1257, suppressed by the Revolution in 1793; replaced 1808 by an Academy of the Université Impériale; reconstituted as university 1890). Was known as Paris-Sorbonne (Paris IV) from 1988 until 2018, when it merged with Université Pierre et Marie Curie (UPMC – Paris VI) and acquired current title.

Academic Year

October to June (October-February; February-June)

Admission Requirements

Secondary school certificate (baccalauréat) or equivalent, or special entrance examination

Language(s)

French

Accrediting Agency

Ministry of Higher Education, Research and Innovation

Student Body

oo-ed

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

③ 申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

参考データ【国内の大学等 1 校につき、①～③は枠内に記入。④～⑤はそれぞれ指定ページ以内】

※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名 岡山大学

① 大学等全体における出身国別の留学生の受入人数（2023 年 5 月 1 日現在）及び各出身国（地域）別の 2023 年度の留学生受入総数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表 1 に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。
 ※「2023 年度受入人数」は、2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の出身国（地域）別受入人数を記入。
 ※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の 2023 年 5 月 1 日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	2023 年 5 月 1 日時点 受入人数	2023 年度 受入総数
1	中華人民共和国	510	610
2	ベトナム社会主義共和国	61	81
3	インドネシア共和国	40	64
4	フランス共和国	17	43
5	バングラデシュ	25	38
6	ミャンマー連邦共和国	27	37
7	大韓民国	34	36
8	タイ王国	13	28
9	アメリカ合衆国	20	28
10	マレーシア	22	23
その他 (上記 10 カ国以外)	(主な国名) 台湾, ドイツ, ブラジル, イギリス, 他	142	205
留学生の受入人数の合計		911	1,193
全学生数		13,505	
留学生比率		6.75%	

② 2023 年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2023 年度中（2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。

なお、2023 年 3 月 31 日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国（地域）	派遣先大学名	2023 年度 派遣人数
1	英国	ヨーク大学	53
2	オーストラリア連邦	アデレード大学	48
3	台湾	長庚大学	39
4	台湾	国立台湾大学	23
5	マレーシア	マラヤ大学	20
6	大韓民国	釜山カトリック大学	16
7	インドネシア共和国	ハサヌディン大学	14
8	タイ王国	カセサート大学	13
9	ドイツ連邦共和国	ルール大学ボーフム	13
10	大韓民国	延世大学	13
その他 (上記 10 カ国以外)	(主な国名) フランス共和国 計 12 カ国	(主な大学名) ボルドーモンテニユ大学 計 112 校	262
派遣先大学合計校数			122
派遣人数の合計			514

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

大学等名	岡山大学						
③ 大学等全体における外国人教員数（兼務者も含む）（2024 年 5 月 1 日現在）							
※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。 ※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。 （いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
1,968	15	26	17	33	0	91	5%
うち専任教員 （本務者）数	15	26	5	33	0	79	

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

大学等名	岡山大学																																															
④ 取組の実績【4 ページ以内】																																																
○国際的な教育環境の構築について (1)英語による授業の実施 -教養教育と語学力 毎年度の入学時に英語については外部検定試験を行い、学生の語学基準を設け、その到達に向けた語学力の養成を行っているが、その結果から 2019 年度より語彙力の強化を目的としたスケジューリング法（マイクロステップ・スタディ）による EdTech を導入、語学力の養成を継続。 -大学院教育の授業の英語化 英語による授業科目を 2014 年度 185 科目であったものが、2023 年度に 1409 科目となり、留学生の受入れ促進策として、英語のみで終了できるコースも増加した。 -グローバル・ディスカバリー・プログラム 英語を共通言語とする学士課程のプログラムで、海外生と国内生を各 30 人として受入れ、令和 6 年 3 月現在で、239 名（日本を含め 24 カ国）の学生が在籍し、総勢 14 名（日本を含め 5 カ国）の国籍だけでなく、専門分野も多様な専任教員が担当している。 ◇ 英語による授業科目数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>単位</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語による授業科目数(D)</td> <td>科目</td> <td>1,256</td> <td>1,291</td> <td>1,333</td> <td>1,359</td> <td>1,769</td> </tr> <tr> <td>うち学部</td> <td>科目</td> <td>316</td> <td>350</td> <td>360</td> <td>369</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>うち大学院</td> <td>科目</td> <td>940</td> <td>941</td> <td>973</td> <td>990</td> <td>1,409</td> </tr> <tr> <td>全授業科目数(E)</td> <td>科目</td> <td>9,430</td> <td>9,806</td> <td>9,539</td> <td>9,797</td> <td>10,071</td> </tr> <tr> <td>割合(D/E)</td> <td>%</td> <td>13.3</td> <td>13.2</td> <td>14.0</td> <td>13.9</td> <td>17.6</td> </tr> </tbody> </table> (2)留学生との交流 自主学修環境として L-Cafe を拡充して、津島キャンパスに加えて鹿田キャンパスにも新設し、留学生や日本人学生、教職員が自由に意見交換する場を設置、正課外での異文化体験のスペースを提供している。 留学生の宿泊施設であるシェアハウスでは、1 ユニット 4 人の部屋に日本人学生 1 名を入居させ、留学生との生活体験を経験できるようにしている。 (3)海外の大学と連携した学位取得を目指す交流プログラム -ダブルディグリープログラム 主として、社会文化科学研究科を中心に、現在 10 のダブルディグリープログラムを構築している。 -UNCTAD と STI for SDGs の人材育成プログラム 本学と国連貿易開発会議(UNCTAD)は、令和2年1月に、SDGs(持続可能な開発目標)達成のための科学技術イノベーション(STI for SDGs)の人材育成に向けて、大学としては世界初となる包括連携協定を締結し、短期プログラム(途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース)と長期プログラム(途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム)の 2 つの人材育成プログラムを提供している。 (4)学生派遣プログラム 全学及び各学部・研究科で協定校への中長期学生派遣、インターンシッププログラム、研究留学、短期語学留学や短期海外研修等を増やし、2023 年度現在 88 プログラムで計 514 名の学生を海外に派遣した。また、大学では留学相談や危機管理体制の強化及び各種奨学金の獲得を通じて学生の円滑な留学生生活を支援している。 (5)海外の大学等からの受入れプログラム -大学院予備教育特別コース							年度	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	英語による授業科目数(D)	科目	1,256	1,291	1,333	1,359	1,769	うち学部	科目	316	350	360	369	360	うち大学院	科目	940	941	973	990	1,409	全授業科目数(E)	科目	9,430	9,806	9,539	9,797	10,071	割合(D/E)	%	13.3	13.2	14.0	13.9	17.6
年度	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度																																										
英語による授業科目数(D)	科目	1,256	1,291	1,333	1,359	1,769																																										
うち学部	科目	316	350	360	369	360																																										
うち大学院	科目	940	941	973	990	1,409																																										
全授業科目数(E)	科目	9,430	9,806	9,539	9,797	10,071																																										
割合(D/E)	%	13.3	13.2	14.0	13.9	17.6																																										

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

本学の大学院に入学希望の学生に対し、大学院の学修に必要な日本語教育及び進路指導を行うコースで、2023 年度は 49 人が在籍し、25 人が本学大学院に進学した。

－交換留学プログラム

本学協定校の学生を 1 年以内の期間で受け入れ、主に英語で行われる授業および日本語・日本文化の授業を提供している。大学院生については、研究指導も行っている。2023 年度は、79 校から 262 人を受け入れた。

－米国務省「重要言語奨学金 (CLS) プログラム」

「アメリカの国家安全保障にとって重要な役割を果たす言語の人材養成およびアメリカ人にその言語を教えることができる教師の拡大」を目的とするアメリカ合衆国国務省奨学金による言語学習プログラムで、本学では日本語プログラムを、2019 年から受託している。2023 年度は、25 人を受け入れた。

○国際化への対応のための教員の資質向上

(1) 外国人教員等の採用 (国際公募、年俸制、テニユアトラック制等の実施・導入を含む。)

令和元年度にテニユア・トラック・ジュニア制度を創設し、積極的に外国籍教員を採用した。外国籍教員の採用割合の引上げ目標の実現に向け、平成 27 年度には部局毎の外国人教員等の増加目標数の設定を行い、平成 28 年度から実施した。部局組織目標の管理項目として外国人教員比率を追加し、勤勉手当の優秀者定数配分の根拠の一つである部局評価に反映させることとした。国際公募についても、外国籍教員採用数等の具体的目標値設定の上、積極的に導入するよう部局長に要請し、国際公募を行い新規採用した常勤教員の割合は、平成 27 年度 7.3%から令和5年度 67.8%に増加した。その結果、平成 27 年度 33.4%であった外国人教員等の比率は、令和5年度は 38.4%まで上昇した。

(2) FD 研修

－全学 FD 研修プログラム

本学では、4 月と 10 月に新任教員研修を実施するほか、毎年度テーマを設定し、年間を通した全学 FD 研修プログラムを実施しており、教育技術の向上や教育改善をテーマに教員研修を実施している。さらに、毎年度、各学部単位でも同様の取組を行っているほか、授業参観 (ピュアレビュー) 等を実施し、教員間での意見交換の場を設けている。さらに、全学委員会では、FD 研修をはじめ種々の教育改善に関する取組について検討している。

○事務体制の国際化

(1) 英語のできる国際担当職員の配置

国際部では、英語で対外交渉が可能な職員を募集し、国際交流プログラムや派遣・受入れ学生の支援業務、また、海外駐在の留学コーディネータなどの業務を行っている。

(2) 語学等に関する職員の研修プログラム等

職員の長期の国際業務研修は、文部科学省の LEAP 制度や JSPS の海外研究連絡センターへの派遣、また、短期の海外業務研修は、大学が設置している海外事務所での業務研修など行っている。

○厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化。

－厳格な成績管理と単位の上限制

成績評価は、授業の形態 (講義、実験、実習、演習、実技等) に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法により、客観的に行っている。

また、GPA 制度を導入し、以下の計算式で算出した GP (グレードポイント) を用いて算出する。各自の GPA は学生本人及び指導教員等は随時確認が可能となっており、個々の学生への指導の際や、留学やコース配属など各種選考の基準に活用している。また、全学部において、履修登録科目の上限制も導入している。

－シラバスの活用による学修課程と出口管理

シラバスについては、「岡山大学シラバス作成ガイドライン」において、シラバスのフォーマットは全学で統一とすうえ、授業内容、到達目標、授業時間外の学習 (予習・復習) 方法、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。履修する授業科目に関連したコア・コンピテンシーを学修成果ごとに示すことによって、学生が履修を決める、あるいは準備学修を進める際の参考となり、また、学修成果を理解し

(大学名：岡山大学) (タイプ： A)

て学ぶことができるようにしている。コア・コンピテンシーは、大学が、卒業生が社会で一般的に必要な能力や知識を定めたものである。

-単位の実質化

平成 28 年度全学部で 60 分・4 学期制を導入し、ディプロマポリシーを達成するために、科目構成・内容を抜本的に見直して科目を体系化、また、能動的な学びを重視した。これにより、80%以上の教員が授業を見直し、約半数の授業でアクティブ・ラーニングを導入し、質保証を図ることができた。

大学等名	岡山大学
⑤ 他の公的資金との重複状況【2 ページ以内】	
以下の取組について経費措置を受けているが、いずれも今回の申請内容と類似していない。 ■大学改革推進等補助金 ○「高度医療人材養成事業(医師養成課程充実のための教育環境整備)」(R5 補正) 本事業により最先端プログラム医療機器(①核医学診断システム、②脊椎手術システム、③超広角走査型レーザー検眼鏡)を整備し、本学の医療人養成においてこれらの医療機器からもたらされる複数の多角的な情報を統合させることで、病態メカニズムや疾患の治療法選択に有益な情報を得る力、診療に関する統合的な情報処理能力を高める力、そして科学的に思考・吟味し活用する力を身に付けることで、高度医療人材の育成を図る。 ■研究拠点形成費等補助金 ○卓越大学院プログラム 「アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム」 (代表:千葉大学, R1-R7) 人文科学の発想を基礎に据えながら、進化した Digital Humanities の技法を融合し、人間社会における未知の事態に対して指針を示しうる大学院教育プログラムを実施している。 ○先進的医療イノベーション人材養成事業 『「Global×Local な医療課題解決を目指した最先端 AI 研究開発」人材育成教育拠点」 (代表:東北大学, R2-R6) 「地域ならではの豊富な医療課題をキュレーションし、AI 技術を駆使した解決法をデザインできる人材を広く養成すること」を目標に東北-北海道-岡山といった地方を結ぶ広域性、各大学で博士課程正規コース、インテンシブコースを有する人材育成数、連携企業・研究機関が 20 を超えるプロジェクトを実施する。 ■日本学術振興会国際交流事業 ○研究拠点形成事業(A.先端拠点形成型)(R3-R6) 「SDGs 達成に向けた ESD(持続可能な開発のための教育)の教師教育の先端拠点形成」 本学が蓄積している ESD の教師教育の成果をもとに、欧州と北米の拠点機関、アフリカと中南米のサブ拠点機関、そして世界の 130 の協力機関と共同で「ESD の教師教育のグローバル・フレームワーク」の開発と普及を図る。 ○二国間交流事業(共同研究) 「ホルモン様ペプチドによるイネ免疫制御機構の統合的理解」(R5-R7) 「ベピコロンボ探査の評価のための水星の地殻組成の合成」(R6-R7) 「下部マントル条件における立方晶カルシウムペロブスカイトの弾性波速度と単結晶弾性」(R6-R8) 「結晶中におけるトリウム 229 アイソマーの原子核緩和過程の研究」(R6-R7) ■(独)日本学生支援機構令和 6 年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入) 採択プログラム 11 件 協定派遣:「グローバル/ローカルな課題解決を目指す国際共同指導による実践型研修・研究プログラム」、「国際プラクティカム・プロジェクトマネージメント実習プログラム」他 6 件 協定受入:「岡山大学-中国東北部大学院留学生交流プログラム(O-NECUS)」他 2 件 上記プログラムのうち、「国際プラクティカム・プロジェクトマネージメント実習プログラム」では、派遣対象国としてフランスが含まれているが、本事業のコアパートナー校であるムルシア大学のあるスペインは対象国に含まれてはいない。また、派遣学生には必ず日欧学生が共に学ぶ Web 活用型ハイブリッド(COIL)授業履修を求めている本事業は、単なる派遣事業ではなく、授業での学びと派遣での実践をセットにした独自の日欧先駆人材育成プログラムであり、明確に区別できる。その他の上記プログラムについては、本事業の申請内容と関連するものはない。	

(大学名:岡山大学)(タイプ: A)

【現在申請中の取組】

■令和 5 年度補正予算「大学の世界展開力強化事業～ASEAN 諸国からの留学生受入、定着促進のためのシステム構築等支援～」

共同利用教育パッケージ名:「芸術と近現代社会の関わり ～ 岡山・瀬戸内(備讃)の事例での対話と探求」

取組内容:ASEAN諸国から我が国への留学につながるような、JV-Campus 上で教育教材として自由に使用できる質の高い映像資料等のアーカイブを構築する。

(大学名:岡山大学) (タイプ: A)

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。
 （令和6年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

＜2024年度＞ 経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
【物品費】	2,025		2,025	
①設備備品費				
・				
・				
②消耗品費	2,025		2,025	
・ 特別研究受入研究室消耗品(対象学生3名@75千円)	225		225	
・ プログラム実施教育用消耗品	1,200		1,200	
・ プログラム実施事務用消耗品	600		600	
【人件費・謝金】	1,936	1,750	3,686	
①人件費	1,816	1,750	3,566	
・ インターンシップコーディネーター（1名）		1,750	1,750	
・ 事務補佐員（1名・4か月）	760		760	
・ 非常勤講師給与（3名）	1,056		1,056	
②謝金	120		120	
・ 事前学修指導謝金（被対象学生6名@10千円）	60		60	
・ 成果発表会指導謝金（4名@15千円）	60		60	
・				
【旅費】	3,010	430	3,440	
・ 教員派遣・受入旅費（6名@430千円）	2,150	430	2,580	
・ プログラム打合せ（DD他、2名@430千円）	860		860	
・				
・				
【その他】	8,329	2,410	10,739	
①外注費	4,451	1,700	6,151	
・ プログラムWebサイト制作	2,000	500	2,500	
・ COIL教材制作費	2,451	1,200	3,651	
・				
②印刷製本費	800		800	
・ プログラムフライヤー・ポスター	800		800	
・				
③会議費	78	272	350	
・ キックオフシンポジウム弁当代	28	272	300	
・ キックオフシンポジウム茶菓	50		50	
・				
④通信運搬費		48	48	
・ ビデオミーティングライセンス料(4回線@12千円)		48	48	
・				
⑤光熱水料				
・				
・				
⑥その他（諸経費）	3,000	390	3,390	
・ 英語外部検定試験(Linguaskill)受験支援(20名@12千円)		240	240	
・ キックオフシンポジウム会議会場借料		150	150	
・ 特別研究学生派遣・受入旅費（6名@250千円）	1,500		1,500	
・ インターンシップ学生派遣・受入旅費（6名@250千円）	1,500		1,500	
・				
・				
2024年度	合計	15,300	4,590	19,890

(大学名：

岡山大学

)

(タイプ：A)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
＜2025年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	〔物品費〕	600		600	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費	600		600	
	・ 特別研究受入研究室消耗品(対象学生8名@75千円)	600		600	
	・ プログラム実施教育用消耗品				
	・ プログラム実施事務用消耗品				
	〔人件費・謝金〕	3,330	7,350	10,680	
	①人件費	3,100	7,350	10,450	
	・ インターンシップコーディネーター（1名）		7,000	7,000	
	・ 事務補佐員（1名）	2,400		2,400	
	・ 非常勤講師給与（3名）	700	350	1,050	
	②謝金	230		230	
	・ 事前学修指導謝金（被対象学生11名@10千円）	110		110	
	・ 成果発表会指導謝金（4名@15千円x2回）	120		120	
	・				
	〔旅費〕	8,670	1,130	9,800	
	・ 教員派遣・受入旅費（6名@430千円）	2,580		2,580	
	・ 特別研究学生派遣・受入旅費（10名@250千円）	2,150	350	2,500	
	・ インターンシップ学生派遣・受入旅費（12名@250千円）	2,650	350	3,000	
	・ 外部評価委員招聘旅費（2名@430千円）	860		860	
	・ プログラム打合せ（DD他、2名@430千円）	430	430	860	
	・				
	・				
	〔その他〕	3,400	1,148	4,548	
	①外注費	3,100		3,100	
	・ プログラムWebサイト更新・管理費	1,000		1,000	
	・ COIL教材制作・更新費	2,100		2,100	
	・				
	②印刷製本費		500	500	
	・ 国際共著論文経費		500	500	
	・				
	・				
	③会議費	300		300	
	・ 外部評価委員会・シンポジウム開催費	300		300	
	・				
	・				
	④通信運搬費		48	48	
	・ ビデオミーティングライセンス料(4回線@12千円)		48	48	
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）		600	600	
	・ 英語外部検定試験(Linguaskill)受験支援(50名@12千円)		600	600	
	・				
	・				
2025年度	合計	16,000	9,628	25,628	

(大学名：

岡山大学

)

(タイプ：A)

)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2026年度>	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	【物品費】	780		780	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費	780		780	
	・ 特別研究受入研究室消耗品(対象学生8名@75千円)	600		600	
	・ プログラム実施教育用消耗品	120		120	
	・ プログラム実施事務用消耗品	60		60	
	【人件費・謝金】	3,680	7,000	10,680	
	①人件費	3,450	7,000	10,450	
	・ インターンシップコーディネーター（1名）		7,000	7,000	
	・ 事務補佐員（1名）	2,400		2,400	
	・ 非常勤講師給与（3名）	1,050		1,050	
	②謝金	230		230	
	・ 事前学修指導謝金（被対象学生11名@10千円）	110		110	
	・ 成果発表会指導謝金（4名@15千円x2回）	120		120	
	・				
	【旅費】	7,080	1,000	8,080	
	・ 教員派遣・受入旅費（4名@430千円）	1,720		1,720	
	・ 特別研究学生派遣・受入旅費（10名@250千円）	2,000	500	2,500	
	・ インターンシップ学生派遣・受入旅費（12名@250千円）	2,500	500	3,000	
	・ 外部評価委員招聘旅費（2名@430千円）	860		860	
	・				
	・				
	・				
	【その他】	3,598	1,280	4,878	
	①外注費	3,250		3,250	
	・ プログラムWebサイト更新・管理費	750		750	
	・ COIL教材制作・更新費	2,500		2,500	
	・				
	②印刷製本費		500	500	
	・ 国際共著論文経費		500	500	
	・				
	・				
	③会議費	300		300	
	・ 外部評価委員会・シンポジウム開催費	300		300	
	・				
	・				
	④通信運搬費	48		48	
	・ ビデオミーティングライセンス料(4回線@12千円)	48		48	
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）		780	780	
	・ 英語外部検定試験(Linguaskill)受験支援(65名@12千円)		780	780	
	・				
	・				
2026年度	合計	15,138	9,280	24,418	

(大学名：岡山大学)

(タイプ：A)

(大学名：

岡山大学

)

(タイプ：A)

)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2027年度>	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		780	780	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費		780	780	
	・ 特別研究受入研究室消耗品(対象学生8名@75千円)		600	600	
	・ プログラム実施教育用消耗品		120	120	
	・ プログラム実施事務用消耗品		60	60	
	[人件費・謝金]	1,780	8,900	10,680	
	①人件費	1,550	8,900	10,450	
	・ インターンシップコーディネーター（1名）		7,000	7,000	
	・ 事務補佐員（1名）	1,200	1,200	2,400	
	・ 非常勤講師給与（3名）	350	700	1,050	
	②謝金	230		230	
	・ 事前学修指導謝金（被対象学生11名@10千円）	110		110	
	・ 成果発表会指導謝金（4名@15千円x2回）	120		120	
	・				
	[旅費]	5,770	2,310	8,080	
	・ 教員派遣・受入旅費（4名@430千円）	1,720		1,720	
	・ 特別研究学生派遣・受入旅費（10名@250千円）	1,350	1,150	2,500	
	・ インターンシップ学生派遣・受入旅費（12名@250千円）	1,840	1,160	3,000	
	・ 外部評価委員招聘旅費（2名@430千円）	860		860	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	3,098	1,530	4,628	
	①外注費	2,750	250	3,000	
	・ プログラムWebサイト更新・管理費	250	250	500	
	・ COIL教材制作・更新費	2,500		2,500	
	・				
	②印刷製本費		500	500	
	・ 国際共著論文経費		500	500	
	・				
	・				
	③会議費	300		300	
	・ 外部評価委員会・シンポジウム開催費	300		300	
	・				
	・				
	④通信運搬費	48		48	
	・ ビデオミーティングライセンス料(4回線@12千円)	48		48	
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）		780	780	
	・ 英語外部検定試験(Linguaskill)受験支援(65名@12千円)		780	780	
	・				
	・				
2027年度	合計	10,648	13,520	24,168	

(大学名：)

岡山大学

(タイプ：A)

(大学名：

岡山大学

)

(タイプ：A)

)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
＜2028年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		780	780	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	・				
	②消耗品費		780	780	
	・ 特別研究受入研究室消耗品(対象学生8名@75千円)		600	600	
	・ プログラム実施教育用消耗品		120	120	
	・ プログラム実施事務用消耗品		60	60	
	[人件費・謝金]	170	10,100	10,270	
	①人件費		10,100	10,100	
	・ インターンシップコーディネーター（1名）		7,000	7,000	
	・ 事務補佐員（1名）		2,400	2,400	
	・ 非常勤講師給与（2名）		700	700	
	②謝金	170		170	
	・ 事前学修指導謝金（被対象学生11名@10千円）	110		110	
	・ 成果発表会指導謝金（4名@15千円）	60		60	
	・				
	[旅費]	3,220	4,860	8,080	
	・ 教員派遣・受入旅費（4名@430千円）	860	860	1,720	
	・ 特別研究学生派遣・受入旅費（10名@250千円）	750	1,750	2,500	
	・ インターンシップ学生派遣・受入旅費（12名@250千円）	750	2,250	3,000	
	・ 外部評価委員招聘旅費（2名@430千円）	860		860	
	・				
	・				
	・				
	[その他]	1,943	978	2,921	
	①外注費	1,143	10	1,153	
	・ プログラムWebサイト更新・管理費	320	10	330	
	・ COIL教材制作・更新費	823		823	
	・				
	②印刷製本費	300	500	800	
	・ 成果報告書	300		300	
	・ 国際共著論文経費		500	500	
	・				
	③会議費	500		500	
	・ 外部評価委員会・成果報告シンポジウム開催費	500		500	
	・				
	・				
	④通信運搬費		48	48	
	・ ビデオミーティングライセンス料(4回線@12千円)		48	48	
	・				
	・				
	⑤光熱水料				
	・				
	・				
	・				
	⑥その他（諸経費）		420	420	
	・ 英語外部検定試験(Linguaskill)受験支援(35名@12千円)		420	420	
	・				
	・				
2028年度	合計	5,333	16,718	22,051	

(大学名：

岡山大学

)

(タイプ：A)

)